一般社団法人 盛岡青年会議所　2024 年度

ANNUAL REPORT

CONECTING 2024

活力の循環を生み 挑戦の輪を広げよう

ーひとが共に寄り添い前向きに生きるためにー

ANNUAL REPORT は、WEBからでもご閲覧いただけます。ブックマークお願いします。

目　次

1．一般社団法人盛岡青年会議所2023年度事業報告

1）2023年度を振り返って（2023年度　理事長　小野寺　数馬）…… 4

2）総会報告（１月通常、２月通常、６月臨時、９月通常）…… 6

3）各種事業報告…… 7

4）例会報告…… 17

5）各種大会報告…… 25

6）各委員会及び出向者報告…… 31

7）2023年度卒業生名簿 …… 37

8）2023年度新入会員名簿 …… 38

9）2023年度出向者名簿 …… 39

10）2023年度出向者報告 …… 40

11）監事講評…… 43

2．2024年度理事長所信 …… 46

3．一般社団法人盛岡青年会議所2024年度スローガン・基本理念・基本方針 …… 50

4．一般社団法人盛岡青年会議所2024年度各委員会事業計画 …… 51

5．一般社団法人盛岡青年会議所2024年度当初予算 …… 60

6．一般社団法人盛岡青年会議所2024年度役員・役職名簿 …… 65

7．一般社団法人盛岡青年会議所2024年度出向者名簿 …… 66

8．一般社団法人盛岡青年会議所2024年度組織図 …… 67

9．2024年度年間スケジュール …… 68

JCI綱領

The Creed of Junior Chamber International

We Believe;
That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies in
human personality; and
That service to humanity is the best
work of life.

我々はかく信じる:
「真理は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は
自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず法によって
運営されるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

JCI Mission

To provide leadership development opportunities that empower young people to create positive change
青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する

JC宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

JCI Vision

To be the foremost global network of young leaders
青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを先導する組織となる

綱領

われわれJAYCEEは
社会的･国家的･国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう。

東北JC宣言

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う

2023年度事業報告

MORIOKA 2023 笑顔の起点になる

～今と未来を生きる子供たちのために～

一般社団法人 盛岡青年会議所
2023年度を振り返って

一般社団法人盛岡青年会議所
2023年度　第71代理事長
小野寺　数馬

MORIOKA 2023 笑顔の起点になる
～今と未来を生きる子供たちのために～

2023年度を振り返って

「しばしば見過ごされ、無視されがちである。（中略）市街地は、非常に歩きやすい。大正時代に建てられた西洋と東洋の建築美が融合した建物、近代的なホテル、いくつかの古い旅館、曲がりくねった川が街中にあふれている。古代の城跡が公園になっているのも魅力のひとつだ」

2023年盛岡市は、作家で写真家のクレイグ・モドさんの推薦により、アメリカのThe New York Times（ニューヨーク・タイムズ）で「52 Places to Go in 2023（2023年に行くべき52か所）」の一つとして発表され、注目を受けることとなりました。この発表は、混沌とした世の中に明るい兆しを与えるきっかけとなったのです。約３年間の感染症との戦いは、私たちの生活様式を大きく変容させました。人々は、コロナ禍で行動制限や自粛を求められ、イベントの中止や開催形式の変更、延期を余儀なくされながらも古きを守りつつ新しきを築くひとの強さを感じることができた年月であったのではないでしょうか。2023年度は、従来通りに祭りやイベントが開催され賑わいを感じることができるとともに、多くの国内外からの観光客の姿を見かけるようになりました。

2023年度、盛岡青年会議所は「笑顔の起点になる～今と未来を生きる子供たちのために～」をスローガンとして掲げて運動を展開して参りました。現在、世界では利己的な理由で利便性を追求した人間活動によって、地球規模の気候変動を起因とする様々な事象を引き起こし、それらは複雑に絡み合い人間社会だけではなく地球上のあらゆる生態系に影響を及ぼしています。かつて異常気象と叫ばれていた現象は、もはやごく有り触れたものとなりつつあります。もりおかにおいては、依然変わらず広大な自然環境を有しており、独自の文化と伝統が根付き、歴史がひとを育て、まちを発展させています。自然と都市、伝統と利便、情緒と機能が融合し、和の精神が息づき分かち合いの気持ちや思いやり、もてなしの心が厚く、ひととの絆を大切にする人々が多く住み暮らしています。このもりおかで、私たちが何気なく過ごす日常を未来に生きる人々は同じように感じることができるのでしょうか。私たちの子供たちが大人になり、家族ができた時にも同じように当たり前の幸せはあるのでしょうか。

環境･社会･経済の側面が複雑に関わり合う現代において、もりおかをより良くするためには、社会経済活動に環境配慮が織り込まれる必要があり、それに加えて地域特性に合わせたまちづくりが不可欠です。地域の社会経済活動は、地域条件･自然資源･人文資源･特産的資源･中間生産物などの地域資源の上に成立しています。今を生きる我々青年経済人が、今と未来を生きる子供たちの笑顔を守るために、明るい豊かな社会の実現に向けて歩み始めました。

基本理念「自然とひとが共生できる社会を実現するために、自らが志を高く仲間と英知を出し合い切磋琢磨しながら成長し、喜びや痛みを分かち合い一丸となり市民意識変革運動を展開する」

「自然とひとが共生できる社会」

自然環境の再生への道筋を考え、地域資源の恩恵を将来にわたって享受できる地域循環共生圏（ローカルSDGs）の構築を意味します。地域循環共生圏は、サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から自然とひとのポテンシャルを引き出す生命系システムです。私たちは、地域資源を最大限

活用しながらも環境が損なわれないよう経済を回して社会課題を統合的に解決することを目指しました。

【もりおかに市民の声を届けることにより共感を呼び協働する】

観光資源の一つであるスポーツ産業における持続可能な多機能複合型交流施設を軸としたまちづくりは、日本だけではなく世界で浸透し様々な事業が展開されています。観光資源の活性化は、関係人口を増やし周辺産業を潤し施設を中心とした様々なコミュニティが形成されます。行政・民間団体・市民など多くのステークホルダーとともに事業を行い、新たに地域経済が発展するためのまちづくりの可能性を見出しました。そして、市民とともに地域の魅力発信を自らが行うことによって、今あるまちの魅力や強みを理解する機会を創出し市民のシビックプライドを高めることができました。

【国際的な視野を身に付け地域から社会全体をより良くするために市民の意識を変革する】

地域から社会全体をより良くしていくグローカリゼーションの意識をもつために、世界から求められていることをローカライズする国際的な視野を学ぶことができました。

４年ぶりに直接的な交流が再開した羅東國際青年商會との姉妹JC交流は、本年姉妹締結55年目を迎えました。相互交流を行い、先輩たちが長きに亘り紡いでこられた信頼と友情を現役メンバーが再認識させていただくことができました。盛岡青年会議所が提供する国際の機会の一つである羅東國際青年商會との姉妹JC交流の信頼と友情の歴史を積み重ねて、未来へと繋げることができました。

【地球規模で活躍できる人材の育成に寄与する】

地域循環共生圏（ローカルSDGs）の取り組みを学生の皆さんから発信していただきました。大人では気づくことが難しい地域課題を取り上げ解決へと向かう能動的な行動は、私たち大人に対して刺激を与えました。私たちは子供とともに学ぶことによって、課題解決に向けた好循環を生み出す能動的スタイルを確立いたしました。

本年で35年目を迎えました「わんぱく相撲盛岡場所」では、自分よりも体格が勝る相手に対して立ち向かう勇気と、勝敗に関わらず礼節をもち感謝の気持ちを忘れない子供たちの姿勢から青少年育成事業の大切さを学びました。

【会員の相互理解を深め、成果を上げるより良い組織に変革する】

ダイバーシティ＆インクルージョンを理解し、共にもりおかの未来を切り拓く仲間に様々なバックグラウンドがあることを受け入れ、互いに歩み寄りながら成果を上げる組織への一歩を踏み出しました。私たちは、活動へ理解を示してくれている仲間や家族への感謝を忘れずに互いに尊重し合える環境を創出し、身近なひとを笑顔にすることが笑顔の起点になる始まりであることを胸に刻みました。

本年で46回目を迎える「盛岡さんさ踊り」は、４年ぶりに通常開催となりました。私たちは、今まで培われてきた伝統を継承しより良く発展させ、練習会からの３ヶ月間、まちの笑顔の起点となりました。

【盛岡青年会議所ブランドを高め、市民に意識変革運動を拡げる】

一人ひとりの行動は、ホームページやSNS、広報誌以上にまちに強烈な印象を与えるからこそ、組織としてのインナーブランディングを強化しました。

そして、本年は盛岡市が世界中から注目されたことをきっかけとし、従来の広報誌から大きく内容を刷新しWEB 媒体を駆使した情報発信を試みました。日本語だけではなく、英語・中国語と３か国後を使い、広く盛岡市のみだけではなく、盛岡市広域圏「もりおか」の観光・子供・国際の笑顔溢れるスポットにフォーカスし情報発信を継続的に行いました。

2024年度は、山内圭介君を理事長として「活力の循環を生み朝鮮の輪を広げよう～ひとが共に寄り添い前向きに生きるために～」をスローガンに掲げ、明るい豊かな社会の実現のために力強い一歩を踏み出します。最後に、2023年度の盛岡青年会議所の運動に対し、ご支援ご協力を賜りました全ての皆様に心からの感謝を申し上げるとともに、2024年度引き続き変わらずご支援ご協力を賜りますことをお願い申し上げ、私からの御礼のご挨拶に代えさせていただきます。一年間誠にありがとうございました。

１月通常総会

１月14日(土)に盛岡グランドホテルにて、１月通常総会が開催されました。１月通常総会では各委員会の年間事業計画、各会計当初予算に関して、会員から承認を得るために開催し、議長である山口雄司君の適切な議事進行のもと、2023年度のスタートを切ることが出来ました。

その後行われましたセレモニーの部では、第66代から第70代までの歴代理事長により、2023年度理事長の小野寺数馬君へプレジデンシャルリースの伝達がなされました。リース伝達式の後、小野寺数馬理事長より挨拶を頂き、セレモニーの部を閉会致しました。

２月通常総会

２月17日(金)に盛岡八幡宮にて、２月通常総会が開催されました。通常総会は年に３回（１月、２月、９月）行われる盛岡青年会議所全体の会議であり、２月通常総会では2022年度の各事業の報告と収支決算、そして2023年度の各委員会年間事業計画、各会計修正に関して、会員から承認を得るために開催致しました。多くの案件がありましたが、議長である池野利彦君の適切な議事進行のもと、全議案は満場一致をもって、承認可決されました。

６月臨時総会

６月20日(火)にZOOMにて、６月臨時総会が開催されました。通常であれば、総会は年に３回(１月通常総会・２月通常総会･９月通常総会)行われますが、2023年度委員会年間事業計画、一般会計予算、特別事業支出積立金管理特別会計予算について修正の必要が生じたため、定款に基づき臨時総会を開催致しました。盛岡青年会議所会員が、新たな事業計画と予算を理解し、共有する機会となり、適切な議事進行のもと、全議案は満場一致をもって、承認可決されました。

９月通常総会

９月28日(木)にホテルメトロポリタン盛岡およびオンライン配信にて、９月通常総会が開催されました。９月通常総会は2024年度の理事予定者、監事予定者、理事長候補者及び役員候補者の選任に関して、会員から承認を得るために開催致しました。議長である髙橋潤君の適切な議事進行のもと、全議案は満場一致をもって承認可決されました。選任された理事予定者ならびに監事予定者、また承認した会員一同ともに、緊張感をもって進められた総会でした。

2023年度［各種事業報告］

MORIOKA 2023 笑顔の起点になる

～今と未来を生きる子供たちのために～

2023年度　年間スケジュール

		1月	2月	3月	4月	5月	6月
盛岡	常任理事会	16日(月)	10日(金)	9日(木)	4日(火)	2日(火)	5日(月)
	理事会	30日(火)	24日(金)	23日(木)	18日(火)	23日(火)	22日(木)
岩手ブロック協議会	正副会長会議						
	役員会議	12日(木)	9日(木)	2日(木)	13日(木)	11日(木)	1日(木)
	会員会議所会議	28日(土) 【遠野】	25日(土) 【北上】	18日(土) 【陸中宮古】	29日(土) 【一関】	27日(土) 【久慈】	17日(土) 【大船渡】
	ブロック行事		4日(土) 新春のつどい 【花巻】		6日(木) 会頭公式訪問 【花巻】		
	ＪＡＹＣＥＥ アカデミー		4日(土) 開校式 【花巻】	11日(土) 第１講座 【一関】		13日(土) 第２講座 【水沢】	
	各ＬＯＭ事業						
東北地区協議会	正副会長 ミーティング	5日(木) 【ＷＥＢ】	8日(水) 【ＷＥＢ】	8日(水) 【ＷＥＢ】	4日(火) 【ＷＥＢ】	8日(月) 【ＷＥＢ】	7日(水) 【ＷＥＢ】
	正副会務会議	17日(火) 【WEB】	16日(木) 【WEB】	17日(金) 【八戸】	14日(金) 【盛岡】	17日(水) 【いわき】	16日(金) 【由利本荘】
	財政規則 審査会議	24日(火) 【WEB】	21日(火) 【WEB】	22日(水) 【WEB】	19日(水) 【WEB】	23日(火) 【WEB】	21日(水) 【WEB】
	役員会議	31日(火) 【WEB】	28日(火) 【仙台】	28日(火) 【仙台】	25日(火) 【青森】	30日(火) 【能代】	27日(火) 【花巻】
	会員会議所会議	20日(金) 【京都】					
	地区行事						
正副会頭会議		6日(金) (JC会館) 13日(金)	1日(水) (名古屋) 9日(木) 21日(火) (帯広)	30日(木) (沖縄)	28日(金) (七尾)	9日(火) (ジャカルタ) 30日(火) (桑名)	14日(水) (WEB) 30日(金) (JC会館)
常任理事会		14日(土) (JC会館)	17日(金) (JC会館)	9日(木) (JC会館)	21日(金) (JC会館)	19日(金) (JC会館)	23日(金) (JC会館)
理事会		20日(金) (京都)	18日(土) (JC会館)	10日(金) (JC会館)	22日(土) (JC会館)	20日(土) (JC会館)	24日(土) (JC会館)
総会		21日(土) (京都)		25日(土) (東京)			
ＪＣＩ諸会議		JCI常任理事会/ 理事会 (JCI JEM/JBM) 10日(火) ～ 14日(土)				アメリカ地域会議 3日(水) ～ 6日(土) アジア･太平洋地域会議 10日(水) ～ 13日(土) ヨーロッパ･地域会議 24日(水) ～ 27日(土)	アフリカ･中東地域会議 21日(水) ～ 24日(土)
ＮＯＭ主要事業		京都会議 (京都) 19日(木) ～ 22日(日)					
財政審査会議		9日(月) 10日(火)	11日(土) 12日(日)	4日(土) 5日(日)	15日(土) 16日(日)	13日(土) 14日(日)	17日(土) 18日(日)
公益審査会議		9日(月)	11日(土)	4日(土)	15日(土)	13日(土)	17日(土)
コンプライアンス審査会議		9日(月)	11日(土)	4日(土)	15日(土)	13日(土)	17日(土)
その他		ＪCI諸会議･大会　開催地 【ＪCI常任理事会/理事会】アメリカ(セントルイス)　【中間常任理事会】アメリカ(セントルイス) 【アメリカ地域会議】コロンビア(サンタ･マルタ)【アフリカ･中東地域会議】ジンバブエ(ハラレ)【ヨーロッパ地域会議】ルーマニア(ブカレスト) 【アジア･太平洋地域会議】インドネシア(ジャカルタ)【世界会議】スイス(チューリッヒ)					

2023年度　年間スケジュール

		7月	8月	9月	10月	11月	12月
盛岡	常任理事会	6日(木)	8日(火)	12日(火)	10日(火)	7日(火)	7日(木)
	理事会	19日(水)	29日(火)	26日(火)	24日(火)	21日(火)	19日(火)
岩手ブロック協議会	正副会長会議						
	役員会議		10日(木)	14日(木)	12日(木)	1日(水) 30日(木)	
	会員会議所会議		26日(土) 【釜石】	30日(土) 【江刺】	28日(土) 【水沢】	11日(木) 【花巻】	9日(土) 【盛岡】
	ブロック行事	8日(土) ブロック大会 【花巻】				11日(土) 謝恩会 【花巻】	
	ＪＡＹＣＥＥ アカデミー		6日(日) 第３講座 【大船渡】		28日(土) 第４講座･閉校式 【水沢】		
	各ＬＯＭ事業						
東北地区協議会	正副会長 ミーティング						
	正副会務会議	5日(水) 【泉】	8日(火) 【天童】	12日(火) 【米沢】	11日(水) 【江刺】	9日(木) 【もとみや】	
	財政規則 審査会議	19日(水) 【WEB】	16日(水) 【WEB】	20日(水) 【WEB】	19日(木) 【WEB】	22日(水) 【WEB】	
	役員会議	26日(水) 【おおさき】		27日(金) 【白河】	27日(金) 【山形】	30日(木) 【湯沢】	
	会員会議所会議						1日(金) 【湯沢】
	地区行事			9月2日～3日 東北青年フォーラム 【北上】			
正副会頭会議		6日(木) (WEB)		1日(金) (山形蔵王) 21日(木) (高松) 7日(木) (JC会館) 28日(木) (WEB)	19日(木) (軽井沢)	30日(木) (神戸)	
常任理事会		20日(木) (JC会館)		15日(金) (JC会館)	5日(木) (JC会館)	24日(金) (JC会館)	15日(金) (JC会館)
理事会		21日(金) (横浜)		16日(土)	7日(土) (東京)	25日(土)	16日(土)
総会					7日(土) (東京)		
ＪＣＩ諸会議		JCI中間常任理事会 (JCI MYE) 20日(木) ～ 22日(土)				JCI世界会議 14日(火) ～ 18日(土)	
NOM主要事業		国際アカデミー (静岡) 10日(月) ～ 15日(土) サマーコンファレンス (横浜) 22日(土) ～ 23日(日)			全国大会 (東京) 5日(木) ～ 8日(日)		
財政審査会議		8日(土) 9日(日)		9日(土) 10日(日) 30日(土)	1日(日)	4日(土) 5日(日)	9日(土) 10日(日)
公益審査会議		8日(土)		9日(土) 30日(土)		4日(土)	9日(土)
コンプライアンス審査会議		8日(土)		9日(土) 30日(土)		4日(土)	9日(土)
その他							

会員開発事業　相互理解を深めよう　（3月事業）

■事業目的

（対内目的）

- 相互理解を深め、活動しやすい環境を創出すること。
- 日頃支えてくださっている方々へ感謝の意を表すること。
- 活動に対し前向きになり、参加意欲を高めること。

（対外目的）

- 盛岡青年会議所の活動や運動を知り、理解すること。
- 参加者同士の繋がりを作ること。

■日時・場所

2023年３月26日（日）
盛岡グランドホテル

■事業報告

３月の会員開発事業では「相互理解を深めよう」と題しまして、会員同士のバックグラウンドを知り、多様性を受け入れる機会とすべく事業を開催いたしました。そこで、本事業では我々の最も身近な存在である家族と同僚をお招きし、互いがどのような環境のもとで青年会議所活動をしているのかを知る機会を設けました。また、出席いただいた家族と同僚の方につきましては、我々の活動について知っていただくことはもちろんですが、それだけでは不満となり家族と同僚との相互理解にはつながらないと考え、日頃の思いを聞く設えを心掛け事業を実施いたしました。事業当日は子供も多く参加し、終始笑顔の絶えない事業となりました。これまで、クリスマス会以外で家族を呼んでの事業ができておらず、家族や同僚からの理解を得られずに、積極的な青年会議所活動をしづらいメンバーもいたかと思いますが、少しでも解消できた事業となったのではないかと考えます。 本事業を通して、会員同士だけではなく家族や同僚との相互理解を深め、一人ひとりが前向きに青年会議所活動をする一助となれたのであれば幸いです。

まちの未来創造事業Ⅰ　みんなで考えよう！笑顔が輝く未来の「もりおか」～アリーナ・スタジアム編～　（４月事業）

■事業目的

（対内目的）

- 市民と協働して理想のまちづくりを推進していく意識を高めること。

（対外目的）

- まちの理想の姿を主体的に考える市民を増やすこと。

■日時・場所

2023年４月８日（土）
盛岡タカヤアリーナ

■事業報告

もりおかの地域資源である観光資源としてのスポーツ産業に着目し、「持続可能な多機能複合型交流施設を軸とするまちづくり」をテーマに、市民一人ひとりがまちの理想の姿を主体的に考えるための講演会を実施いたしました。もりおかにおいては、人口減少による経済規模の縮小等が懸念されております。そのため、もりおかへの愛着を形成すべく、私たち一人ひとりが、人々が住み続けたいと思える魅力あるまちづくりを推進していくことで、このまちを活性化する必要があると考え、当事業を実施いたしました。

当日は、ご参加いただいた方々に多機能複合型交流施設に係る講演を聴いていただいたほか、多機能複合型交流施設を軸としたまちづくりを行っている全国事例を紹介いたしました。また、市民の皆様に理想のアリーナ・スタジアム像をボードに書き込んでいただく設えもいたしました。まちづくりの手法を学んでいただくとともに、自身が考えるまちの理想像を考えていただくきっかけを提供したことにより、理想のまちの姿を主体的に考える市民を増やすことができたものと考えております。

羅東國際青年商會　姉妹交流　渡航

■事業目的

（対内目的）

- 羅東國際青年商會との相互理解と信頼を深めること。
- 国際交流の意義を認識し、次世代に継承すること。
- 姉妹締結55周年式典に向けて機運を高めること。

■日時

2023年６月７日(水)　中華民国　宜蘭縣（ぎらんけん）　羅東鎮（らとうちん）

■事業報告

６月７日から10日の日程で羅東の地へ現役メンバーと特別会員25名で訪問いたしました。本年度は初めて渡航するメンバーが多く、空港での熱烈な歓迎から４年ぶりの対面の交流が再開されました。

初日は移動日となり、２日目は羅東林業文化公園を訪問し、羅東にある日本式の建物を見学しました。昼食時には宜蘭縣長（ぎらんけんちょう）も駆けつけてくださり、歓迎のお言葉と姉妹交流の発展を祝っていただきました。夜は羅東OB主催歓迎会が開催され、両ＪＣメンバーと両OB先輩の皆様と親睦を深めました。３日目は姉妹交流20周年記念碑を見学し姉妹交流の歴史を学び、その後羅東鎮公所（らとうちんこうしょ）を訪問し羅東鎮長（らとうちんちょう）と昼食を交えて交流を行いました。夜の現役主催交流会では受入時に共に参加するさんさ踊りを披露し、盛岡での再会を約束するなど有意義な時間を過ごしました。

言葉の通じない他国への渡航や人と交流することは時に高い壁と感じ行動を起こすのが困難なことがありますが、他国の文化、思想に触れることは自国との違いや新たな発見や学びの場となります。今回の渡航を通して青年会議所の魅力の１つである国際交流の意義を認識し、次世代へと継承する機会といたしました。

羅東國際青年商會　姉妹交流　受け入れ

■事業目的

（対内目的）

- 羅東國際青年商會との相互理解と信頼を深めること。
- 国際交流の重要性を理解し、次世代に継承する契機とすること。

（対外目的）

- 相互理解を深めていただくこと。
- 国境を越えた友情を更に深めていただくこと。

■日時

2023年７月30日（日）　盛岡市内

■事業報告

７月30日から８月2日の４日間、盛岡市内各所で羅東國際青年商會との姉妹交流を行いました。本年度は姉妹締結55周年であり、４年振りの盛岡での姉妹交流に55名の羅東メンバーが来盛いたしました。

31日は姉妹締結55周年式典・祝賀会、シニアクラブ主催歓迎会を開催し、これまで姉妹交流を培われてきた先輩方と共にお祝いいたしました。１日はさんさ踊りに参加いたしました。羅東メンバーに盛岡青年会議所の浴衣を着用してもらい、盛岡の伝統を肌で感じていただきました。

４年振りの受入事業であり、姉妹交流を経験しているメンバーが少なくなっている中、特別会員の皆様や多くのメンバーにご協力していただき、盛大に受入事業を行うことが出来ました。

羅東國際青年商會　経済文化交流会議

■事業目的

（対内目的）

- 羅東國際青年商會との相互理解と信頼を深めること。
- 国際交流の重要性を理解し、次世代に継承する契機とすること。

（対外目的）

- 相互理解を深めていただくこと。
- 国境を越えた友情を更に深めていただくこと。

■日時・場所

2023年６月９日（金）　羅東國際青年商會ルーム
2023年７月31日（月）　盛岡グランドホテル

■事業報告

昨年まで新型コロナウイルス感染症に伴いZoomで行われていた経済文化交流会議も本年度は渡航と受入時に２回行いました。先輩たちが紡いでこられた姉妹交流を継続し、両ＪＣが地域社会の発展のために2022年度、2023年度に実施した事業の活動を共有し相互理解を深めました。また今後の姉妹交流の交流方法の意見も出るなど姉妹締結60周年に向けて有意義な経済文化交流会議となりました。

羅東國際青年商會　姉妹締結 55 周年式典・祝賀会

■事業目的

（対内目的）

- 羅東國際青年商會との相互理解と信頼を深めること。
- 国際交流の重要性を理解し、次世代に継承する契機とすること。

（対外目的）

- 相互理解を深めていただくこと。
- 国境を越えた友情を更に深めていただくこと。

■日時・場所

2023年７月31日（月）　盛岡グランドホテル

■事業報告

盛岡青年会議所と台湾の羅東國際青年商會が、青年の英知と勇気と情熱を結集し、相互理解と信頼のもと、両国の明るい豊かな社会の実現に向けて続けてきた姉妹ＪＣ交流は、本年で55年目を迎えました。それに伴い７月31日（月）に盛岡グランドホテルにて姉妹締結55周年式典・祝賀会を開催いたしました。

式典では小野寺数馬理事長、賴倫楷（らいりんかい）會長から式辞、盛岡ＪＣシニアクラブ会長佐藤克先輩、羅東國際青年商會OB會長吳其尚（うーちーしゃん）先輩から祝辞を頂戴し、姉妹締結55周年の宣言と署名をしていただきました。祝賀会では名誉会員の皆様から祝辞をいただき共に姉妹締結55周年を祝いました。また姉妹青年会議所定款、褒賞に関する規定に基づき、2019年と本年度来盛した21名の対象者の褒賞を行いました。

祝賀会を始め、特別会員の皆様の交流を大切にする姿を目の当たりにし、55年の重みと想いを知る機会となりました。

次世代育成事業Ⅱ もりおかSDGsフェスタ ～今日から未来に繋げる笑顔の輪～ （９月事業）

■事業目的

（対内目的）

- 持続可能な社会や環境､生き方や働き方を理解し､自身や次世代のためのライフステージを明確にすること。
- ライフステージを実現するために、学び取り組み続けることの重要性を理解すること。

（対外目的）

【対子供】

- 持続可能な社会や環境、生き方や働き方について、考える機会を創出すること。
- 疑問に思ったことや興味を持ったことに関して学びたいと思う気持ちを育むこと。

【対大人】

- 持続可能な社会や環境、生き方や働き方について、考える機会を創出すること。
- ライフステージを実現するために、学び取り組み続けることの重要性を理解すること。

■日時･場所

2023年９月９日(土)

盛岡城跡公園　櫻山神社

■事業報告

当事業は、持続化可能な社会や環境を自分事として捉え、これからの生き方や働き方について考え行動できる人材の育成を目的に事業を展開いたしました。もりおかの持続可能な社会や環境を実現させるためには、より多くの人･企業･団体･行政が一体となり取り組む必要があるため、各所にご協力の依頼をしました。その結果、沢山の企業様からもご協賛をいただき、もりおか広域圏に住み暮らす人･学生･企業･団体･自治体のご協力をもと、市民変革運動に繋がる事業を開催することができました。

会場は、もりおかの地域資源でもある盛岡城跡公園と櫻山神社で開催をし、午前中は、もりおか広域圏の自治体を初め、企業や個人のSDGsの取り組みをクイズ形式にして、問題に答えてスタンプを集めるスタンプラリーにすることで子供が楽しく学べる内容としました。また、問題の内容を比較的難しい内容にすることで保護者も一緒に学ぶことができる内容としました。問題の提示者は各ポイント15箇所に人員を要するため、ボランティアスタッフを募集しました。岩手県立大学、岩手大学、上野法律ビジネス専門学校の学生から申込みをいただきました。また、次世代育成委員会以外の盛岡青年会議所のメンバーにも問題提示者としてご協力をいただきました。 午後の櫻山神社では、スタンプラリーに提示した問題をより詳しく理解していただくためにSDGsに取り組む人･企業･団体･自治体の説明ブースを設けました。また、４月例会にも参加していただいた学生に協力していただき、取り組みの実践をしていただきました。その他には、society5.0を生きる子供たちにあらゆる課題を解決させるツールとして期待されている先端技術に触れることより、これからの生き方や働き方を学ぶ機会といたしました。

全体を通して、もりおかに住み暮らす方々の協力を得て、各立場の視点から持続可能なもりおかにするにはどうしたらよいかを考え、解決に向けて自ら行動に移す意欲を高めることができた事業となりました。

さんさ踊り練習会

■事業目的

（対内目的）

- 会員同士の仲間意識を高めること。
- 市民とのつながりを強めること。
- 活動への参加意識を高めること。

（対外目的）

- 共に活動する意欲を高めること。

■日時・場所

2023年６月９日（金）から７月28日（金）

■事業報告

６月から７月にかけて計10回の練習会を開催し、練習会を通して、会員同士の仲間意識を高めることと市民との繋がりを強めることを目的とし設営いたしました。単発の事業とは違い、複数回事業を行うことのできる本事業は、会員同士や市民と多くの時間を共有でき、関係構築を図ることができました。また、日頃から市民意識変革運動を行っている私たちにとって市民と共に活動することは、まちの発展のためにより良い運動へと繋がる機会となります。

今年も、計８回の練習会を市民の方と行うことができ、多くの方に盛岡青年会議所の活動を知っていただけました。今回の練習会が、今後の盛岡青年会議所が展開する運動に対して市民の方から共感をいただける機会となったのであれば幸いでございます。

公開討論会

■事業目的

（対内目的）

- 政治や行政、まちへの関心を高めること。
- 青年会議所が公開討論会を開催する必要性を理解すること。

（対外目的）

- 有権者が適切な判断および選択をできるようになること。
- 若年層をはじめ市民が政治への当事者意識を高めること。
- 盛岡青年会議所の運動が広く認知されること。

■日時・場所

2023年８月５日（土）　岩手県公会堂　大ホール

■事業報告

盛岡市長選挙を前に、立候補予定者２名による公開討論会を開催しました。当日は、約100名の方々にご来場いただき、「立候補の動機」、「少子化対策」、「学校教育」、「雇用改善」、「市街地活性化」の５つのテーマについて、各候補者から熱い思いを語っていただきました。

事業実施前から、盛岡市政アンケートと題して街頭インタビューを行ったり、大学や高校などの協力を得て若年層へのアンケートを実施したり、市民の考える盛岡市の行政課題や要望などを収集して、当日の討論テーマに反映させました。また本年の工夫のひとつとして、学生の政治参加を促進する学生団体「岩手県立大学 明るい選挙推進サポーター 県大Voters」にも協力いただき、事業を構築しました。

本事業が、若年層をはじめ一人でも多くの市民に政治や選挙への関心を持っていただく契機となり、まちの未来と向き合う人が少しでも増えたことを信じております。

第 38 回わんぱく相撲全国大会男子

■事業目的

（対内目的）

- 青少年育成事業の重要性を再認識すること。
- 自身の挑戦する意欲を高めること。

（対外目的）

- 子供たちの思いやりの心を育むこと。
- 子供たちが目標に向かって挑戦すること。
- 子供たちが地域に固執せず、広い視野を持つこと。
- 大人が子供たちの成長を感じることで、青少年育成の重要性を再認識すること。

■日時・場所

2023年７月30日(日)　両国国技館

■事業報告

７月30日に両国国技館にて開催された第38回わんぱく相撲全国大会男子は、盛岡場所で横綱となった４年生から６年生の３名を引率しました。近年、新型コロナウイルスの影響で実施されていなかった相撲部屋での宿泊も今年は開催され、茨城県にある式秀部屋に宿泊させていただきました。相撲部屋では、親方や現役力士の貴重なお話を聞き、他の青年会議所の選手との交流で絆を深めると共に、相撲部屋のルールに従い規律を学ぶことができました。また、お世話になった相撲部屋へ感謝の手紙を書き感謝の気持ちを伝えることで礼節を学ぶ機会となりました。大会では、前日の移動と当日早朝の移動で、選手はベストコンディションではなかったものの、自身の力を発揮しようと一生懸命に取組を行いました。大会では、全国大会に出場する選手の強さを知ることで、新たな課題を見つけ更なる成長へ繋がる機会となりました。また、引率した大人は選手が一生懸命に取組に挑む姿から、健全な成長を育む事業の必要性と自身の行動意欲を高めることができました。

【試合結果】

４年生　濵田和さん　　２回戦敗退
５年生　佐々木桜助さん　２回戦敗退
６年生　千葉優太さん　　１回戦敗退

第 4 回わんぱく相撲全国大会女子

■事業目的

（対内目的）

- 子供たちが大会に挑む姿から、青少年育成の重要性を認識すること。
- 子供たちに向上心が育まれること。
- 子供たちに思いやりの心が育まれること。

（対外目的）

- 子供たちが大会に挑む姿から、青少年育成の重要性を認識すること。

■日時・場所

2023年９月24日(日)
新潟県新発田市　新発田カルチャーセンター

■事業報告

９月24日に新潟県新発田市にて開催された第４回わんぱく相撲全国大会女子は、盛岡場所で横綱となった４年生から６年生の３名を引率しました。大会では、東北大会で優勝した実績があり、全国大会初参加となる４年生の選手がベスト８。５年生の選手が決勝まで勝ち進み準優勝。６年生の選手が昨年度横綱の選手と２回戦で取組を行い、惜しくも３回戦へ進むことができませんでした。団体では、３選手とも最後の最後まで諦めず相手選手に立ち向かう姿と仲間を応援しあった結果、見事３位となり笑顔で大会を終えることができました。選手は大会が終わった後、全国の選手と取組を行ったことで、新たな課題と目標ができておりました。

解団式では、選手から盛岡青年会議所の引率したメンバーに感謝の挨拶もあり、礼節を示していただきました。参加したメンバーは事業を通して青少年育成事業の重要性を改めて認識することができた事業となりました。

【試合結果】

４年生　佐々木海寧さん　ベスト８
５年生　古舘皇さん　　準優勝
６年生　佐藤実莉さん　　２回戦敗退　団体３位

仮会員オリエンテーション

第２回仮会員オリエンテーション

■事業目的
（対内目的）
- 仮会員および正会員が、基本理念を正しく理解すること。
- 正会員が、事業構築における背景、目的を改めて理解すること。
- 仮会員および正会員が、事業に対する参加意欲を高めること。

■日時・場所
2023年７月13日（木）
いわて県民情報交流センター（アイーナ）会議室803

■事業報告
2023年７月13日（木）に第２回仮会員オリエンテーションをいわて県民情報交流センター（アイーナ）にて開催いたしました。第１回仮会員オリエンテーションの開催に引き続き、仮会員が入会した組織はどういった組織なのか、何を行っている組織なのかを理解するとともに正会員と交流を図り事業へ参加意欲を向上していただく内容の事業を設営いたしました。本事業では、グループワークを通して実際に事業を構築する上での背景や目的の設定を行っていただきました。より深い部分の内容を行うことでこれまでと違った視点で事業を見ることができる内容となり、参加したメンバーからも今後の事業への参加意欲が高まったと評価をいただきました。

第３回仮会員オリエンテーション

■事業目的
（対内目的）
- 仮会員および正会員が、基本理念を正しく理解すること。
- 正会員が、事業構築における背景、目的を改めて理解すること。
- 仮会員および正会員が、事業に対する参加意欲を高めること。

■日時・場所
2023年11月８日（水）　盛岡八幡宮参集殿

■事業報告
2023年11月８日（水）に第３回仮会員オリエンテーションを盛岡八幡宮参集殿にて開催いたしました。プレゼンテーションを通して我々が所属している組織について理解を深めていただき、グループワークを通して所属している組織を小学生向けという条件の中どのように説明するのかを議論していただきました。グループワーク後には寸劇形式で各グループに発表をしていただき多くの笑いと学びのある内容となりました。分かりやすく且つ本質から外れない説明には各メンバー悪戦苦闘しておりましたが、ユーモア溢れる意見が多く飛び交い参加したメンバーにとって多くの学びがある事業構築となりました。

2023年度［例会報告］

MORIOKA 2023 笑顔の起点になる

～今と未来を生きる子供たちのために～

1月 例会　新年交賀会

■事業目的

（対内目的）

- 2022年度の運動へご支援・ご協力いただいたことに対しての謝意を、ご出席いただいた皆様に示すこと。
- 理事長所信への理解を深め、メンバー一人ひとりが2023年度の運動に対し前向きな意識を高めること。

（対外目的）

- 盛岡青年会議所の2023年度の方針や運動を理解していただくこと。
- 感謝を伝え、変わらぬご支援、ご協力を賜ること。

■日時

2023年１月14日（土）　盛岡グランドホテル

■事業報告

当会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、時代に適応しながら毎年組織や事業を絶えず変化させ続け、運動を展開して参りました。地域の方々に支えられながら、この運動は脈々と受け継がれています。新年交賀会は、ご来賓、関係諸団体、各地の青年会議所会員及び特別会員の皆様をお招きし、これまでの運動に対するご理解、ご支援について謝意を伝え、新年度の理事長所信、組織及び年間事業計画を発信する場として、例年開催させていただいており、本年度も開催させていただきました。

本年度の新年交賀会においても、当会議所のこれまでの運動へご支援、ご協力いただいた皆様に対して謝意を伝えさせていただき、新年度の方針や体制を披露させていただきました。

また、新年度の理事長所信も披露させていただき、ご参加いただいた皆様に新年度の当会議所の方針や運動を理解していただけたのではないかと考えております。メンバー一人ひとりにとっても、本年度の運動に対する前向きな意識を、それぞれ高めることができたのではないかと考えております。

2月 例会　グローカリゼーションの観点から学ぶ地域振興　～世界でKANPAI!! ～

■事業目的

（対内目的）

- グローカリゼーションの意識を持つこと。
- ローカルSDGｓの重要性を理解すること。
- 地域の活性化に寄与する意識を持つこと。

（対外目的）

- グローカリゼーションの意識を持つこと。
- ローカルSDGsの重要性を理解すること。

■日時・場所

2023年２月８日（水）　盛岡グランドホテル

■事業報告

２月８日（水）に盛岡グランドホテルにて【グローカリゼーションの観点から学ぶ地域振興　～世界でKANPAI!! ～】と題し２月例会を開催いたしました。

第１部セミナーの部では担当委員会でグローカリゼーションとローカルSDGｓの概要説明を行い、講師に株式会社南部美人代表取締役社長の久慈浩介氏をお招きし、地域資源を損なわず循環させながらグローバルに展開し、地域経済の規模を大きくしていくための方法や、そこに至る思いをお聞きし学ぶ機会といたしました。

第２部懇親会の部では63名の一般参加者の方々と交流を行いました。企業PRの時間も設け、盛岡青年会議所の活動やお互いの情報を交換する場となりました。多くの出会いと学びを創出し、互いの強みを生かしビジネスの発展にも繋げていく契機となりました。

3月例会　第１回仮会員オリエンテーション

■事業目的

（対内目的）

- 仮会員および正会員が、基本理念を正しく理解すること。
- 正会員が、事業構築における背景、目的を改めて理解すること。
- 仮会員および正会員が、事業に対する参加意欲を高めること。

■日時・場所

2023年３月17日(金)　盛岡八幡宮　参集殿

■事業報告

2023年３月17日（金）に３月例会「第１回仮会員オリエンテーション」を盛岡八幡宮参集殿にて開催いたしました。本年度は、正会員が事業を構築することでより仮会員に向け青年会議所とはどのような組織なのか、どのような運動を起こしているのか、をクイズを交えながら楽しく学び理解する内容の事業を構築し設営いたしました。プレゼンテーションを通し、どういった組織であるのか全体像を掴んでいただき、グループワークでは継続事業を元にどういった目的で事業を行うのかを考えることで入会をした組織がどういったことを行っているのか理解をしていただきました。また、正会員についても改めて所属している組織がどういった組織なのか理解を深める場となりました。

4月例会　次世代が発信する！ローカルSDGsで地域に活力を

■事業目的

（対内目的）

- 社会課題を自分事として捉え、解決に向けて行動に移す意欲を高めること。
- これからの社会で必要とされる社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を理解すること。
- 今と未来の子供たちのために大人として何をすべきか理解すること。

（対外目的）

- 社会課題を自分事として捉えること。
- これからの社会で必要とされる社会人基礎力(前に踏み出す力･考え抜く力･チームで働く力)を理解すること。
- 今と未来の子供たちのために大人として何をすべきか理解すること。

■日時・場所

2023年４月30日（日）

いわて県民情報交流センター (アイーナ)　会議室803

■事業報告

日本がこれまで取り組んできた暗記型の教育は、経済を大きく成長させてきました。しかし、現代社会においては、環境と社会に配慮をしつつ経済を成長させる取り組みが求められています。私たちはSDGsを通して、社会課題を自分事として捉え解決に向けて一歩を踏み出すことができる人材の育成を目指し事業を展開いたしました。日本はSDGsに取り組む人が少なく、その要因としては、SDGsと聞くと世界の話で自分には関係ない話と認識している人や、経済を支えている我々大人に取り組み方がわからない人が多くいると考え、身近な方の取り組みを学ぶことで自分事として捉えることができると考えました。もりおかの学生にプレゼン形式で発表していただき、取り組みを学ぶことで、大人は今と未来を生きる子供たちのために何をするべきなのかを自分事として考える機会となりました。また、これからの時代で長く活躍できるよう、人生100年時代においての社会人基礎力(前に踏み出す力･考え抜く力･チームで働く力)を学びました。１日の学びをそれぞれの立場からディスカッション形式で共有することで、より深い学びができ、解決に向けての行動に繋がる事業となりました。

5月 例会　羅東國際青年商會との姉妹 JC 交流にむけての勉強会

■事業目的

（対内目的）

- 羅東國際青年商會との姉妹締結55周年の渡航。
- 受入の際のメンバーの参加意欲を向上させること。

■日時・場所

2023年５月19日（金）　クイーンズフォンテ

■事業報告

５月19日（金）にクィーンズフォンテにて『羅東國際青年商會との姉妹JC交流にむけての勉強会』と題し５月例会を開催いたしました。

姉妹交流を経験しているメンバーが少なくなっている中、本年度は相互交流の機会となっており、受入時には姉妹締結55周年の式典も開催されます。一人でも多くのメンバーが姉妹交流に積極的になり盛岡青年会議所の魅力として理解することが、永続的な交流に繋がるため勉強会を設えました。 勉強会第１部では台湾と岩手の繋がりや、姉妹交流の歴史を勉強することで新たな学びや再認識する場といたしました。勉強会第２部では国際事業担当委員会委員長を経験した３名の先輩方をお招きし、姉妹交流で得た体験談を聞くことにより国際交流の意義を学んでもらう場といたしました。

懇親会の部では６月に渡航される特別会員の方々と積極的な交流を図り、継承されていく姉妹交流事業への参加意欲を向上していただきました。

当日はたくさんのメンバーが特別会員と交流を行い、受入の際の参加意欲を向上する契機となりました。

6月 例会　第 35 回わんぱく相撲盛岡場所

■事業目的

（対内目的）

- 子供たちに健全な成長の機会を提供する重要性を再認識すること。
- 子供たちの挑戦する姿から、自身が挑戦する意欲を高めること。

（対外目的）

《対子供》
- 他者を思いやる気持ちを育むこと。
- 自身の成長や課題を認識し、目的に向かって挑戦する意欲を高めること。

《対大人》
- 子供たちに健全な成長の機会を提供する重要性を再認識すること。

■日時・場所

2023年６月18日(日)　八幡平市松尾相撲場

■事業報告

先輩が長年継続してくださいましたわんぱく相撲盛岡場所は、今年で35回目を迎えました。近年、新型コロナウイルスによる行動自粛やゲームやスマートフォンの普及により、スポーツ離れが進み、スクリーンタイムが増加傾向になりつつある現代社会において、スポーツを通して人間関係を構築する力や他者を思いやる気持ちを育む機会を創出いたしました。今年は昨年同様、八幡平相撲場にて岩手県相撲連盟様のご協力と、もりおかの企業・自治体・諸団体の後援や協賛をいただき開催をいたしました。講師には郷土力士でもあります現役の錦木関と、世界相撲選手権にて優勝の実績もある五十嵐氏をお招きし、子供たちそれぞれが抱えている課題を事前アンケートで募り、アドバイスをいただきながら錦木関とのぶつかり稽古にて実践しました。大会では、日頃の鍛錬を発揮しようと一生懸命に取り組む姿や、相手の選手に手を差し伸べる姿があり、スポーツを通して挑戦することの大切さと礼節を学ぶ機会とすることができました。また、大人は、子供たちの姿から、健全な教育のための事業の必要性を理解し、自身の行動意欲を高めることができた事業となりました。

7月例会　みんなで考えよう！笑顔が輝く未来の「もりおか」～観光編～

■事業目的

（対内目的）

- もりおかの魅力を再認識する。
- もりおかの魅力を発信する意欲を持つ。
- もりおかの魅力発信を市民に啓発する気運を高める。

（対外目的）

- もりおかの魅力を再認識する。
- もりおかの魅力を発信する意欲を持つ。

■日時・場所

2023年７月18日(火)
岩手県民情報交流センター（アイーナ）

■事業報告

盛岡市は、ニューヨーク・タイムズ紙の「2023年に行くべき52か所」の一つに取り上げられたことにより世界的な注目を浴びました。そのため、もりおかの魅力を世界に発信し、交流人口を増やすことで地域を活性化する絶好の機会が訪れておりました。そこで、７月例会においては、市民一人ひとりが効果的かつ手軽にＳＮＳを用いてもりおかの魅力を発信できるよう、講演会を実施いたしました。

具体的には、いわゆるインフルエンサーと呼ばれるＳＮＳの発信に強い影響力をもつ方々をマネジメントする業務に携わっていらっしゃる、ＳＮＳに造詣の深い講師をお招きし、市民の方々にご講演を聴いていただいたほか、実際にＳＮＳでの発信を行っていただきました。ご講演を聴いていただいたことにより、自身がこれまで気づいてこなかった視点でのもりおかの魅力を再認識していただくとともに、もりおかの魅力を発信する意欲を持ってもらう機会を提供することができたのではないかと考えております。

これを機に、我々を含め、市民一人ひとりがもりおかの広告塔となり、このまちの魅力を積極的に発信していき、世界中から人々が訪れ、このまちがさらなる発展を遂げることを祈念しております。

8月例会　第 46 回盛岡さんさ踊り

■事業目的

（対内目的）

- 会員同士や市民との絆を深めること。
- 今後の活動に対し、積極的になること。

（対外目的）

- 自身がまちづくりに寄与している認識をもつこと。
- 今後も共に活動する意欲を高めること。

■日時・場所

2023年８月１日(火)
櫻山神社、盛岡市中央通

■事業報告

８月例会は、８月１日(火) ～４日(金)に亘り第46回盛岡さんさ踊りを開催いたしました。盛岡青年会議所にとって盛岡さんさ踊りは、市民と一体となり盛岡のまちづくりに寄与する最大の運動であります。つまり、我々が目指す市民意識変革運動を発信する最大の場です。今年度は、新型コロナウイルス感染症の制限がなくなり４年ぶりの通常開催となりました。盛岡青年会議所は、主催団体の一つとしてこれまで盛岡さんさ踊りに携わって参りましたが、これまでで一番さんさ踊りがどれだけ我々と市民を繋ぐ架け橋になっていたのかを感じさせられる機会となりました。６月の練習会から約２か月にわたり、市民の方と共に盛岡さんさ踊りを通じたまちづくりをできたことは、やはり盛岡青年会議所にとって最大の市民意識変革運動であったと確信しております。 本事業が、市民から盛岡青年会議所の活動に対し理解と共感をいただきながら、盛岡さんさ踊りだけではなく様々な活動の中で市民と協同してまちづくりをしていく一助になったと確信しております。

9月 例会　2023年度出向者連絡会議

■事業目的

（対内目的）

- 公益社団法人日本青年会議所（東北地区協議会及び岩手ブロック協議会を含む）へ出向している会員の経験を当会議所全体で共有すること。
- 新たな学びや気づきを得ること。
- 次年度以降在籍するメンバーが出向する意欲を高めること。

■日時・場所

2023年９月28日（木）

ホテルメトロポリタン盛岡　NEW　WING　４階

■事業報告

2023年度出向者連絡会議は、ホテルメトロポリタン盛岡NEW WINGにて開催しました。本年は、総勢48名の盛岡青年会議所メンバーが、各地に出向されました。それぞれの出向先で経験した貴重なお話をメンバーに共有していただき、出向の経験がないメンバーや新入会員、仮会員の出向に対する関心や意欲につながる機会となりました。出向者の皆様が、出向先で積まれた多くの経験を通じて得た価値は、盛岡青年会議所にとって貴重な財産であり、次年度以降の更なる力強い運動発信に繋げていただけると考えます。

10月 例会　OB先輩と現役メンバーとの交流会

■事業目的

（対内目的）

- 特別会員との交流を深めること。
- 盛岡青年会議所の歴史を再認識し、今後の運動及び活動に繋げること。

（対外目的）

- 盛岡青年会議所の運動及び活動に対し、理解を深めること。

■日時・場所

2023年10月13日（金）　盛岡グランドホテル

■事業報告

盛岡青年会議所は創立より71年の長きにわたり「明るい豊かな社会」の実現を目指しJC運動を展開してまいりました。その歴史と伝統を築いてこられた特別会員の皆様に深く感謝するとともに、今後展開する運動を更に発展させることを目的とし開催致しました。当日は多くの方にご参加いただき世代を超えた繋がりを築くことができ、今後の更なる盛岡青年会議所の運動の発展につながる契機となる、とても有意義で価値のある時間を共有することができました。

11月 例会　2023年度活動報告例会

■事業目的

（対内目的）

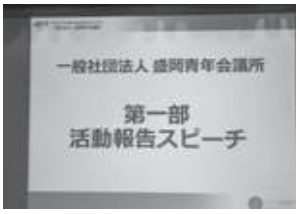
- 自然とひとが共生できる社会の実現に向けて、我々の運動及び活動が社会に対し、どのように展開できたのかを会員全体で共有すること。

■日時・場所

2023年11月22日（水）盛岡グランドホテル

■事業報告

一般社団法人盛岡青年会議所運営規程に則り、11月活動報告例会を開催いたしました。2023年度のスローガンである「笑顔の起点になる～今と未来を生きる子供たちのために～」のもと、本年度の活動や運動がどのように展開できたのかを会員全体に共有することを目的としました。活動報告スピーチでは各委員長がどのような想いで一年間を過ごしてきたのか、どのように委員会を運営し事業構築をしてきたのか演説され、活動報告パフォーマンスでは委員会メンバーがどのように携わってきたのかをユーモア溢れるパフォーマンスで報告をして頂きました。本例会を通じ、自身の委員会だけでなく、今日まで他の委員会の執跡を参加者で共有することができました。本例会は一年を振り返るとともに、今後の活動につなげてくための良い機会を提供することが出来たと感じております。次年度以降も盛岡青年会議所が力強い運動を展開し、明るい豊かな社会を実現するべく活動していくことへの弾みとなる時間となりました。



12月 例会　卒業式

■事業目的

（対内目的）

- 卒業生が今後の人生へ歩みを進める決意をする。
- 現役会員が卒業生の想いを継承し、今後の活動へ積極的になる。
- 新入会員が同期の絆を深め、JAYCEEとしての自覚をもつ。

■日時・場所

2023年12月２日（土）　盛岡グランドホテル

■事業報告

今年度は、16名の方が40歳を迎え、盛岡青年会議所をご卒業されます。現役会員は、卒業生がこれまでの経験からJAYCEEとして培ってきた想いを受け継ぎ、一人ひとりがもりおかの発展に寄与していく自覚と覚悟をもち、今後活動することへより積極的になる機会を設けるべく卒業式を開催いたしました。今年卒業をされる方々は入会年度の幅が広く、歴が長い方は多くの先輩方と共に活動した経験や、自身が自ら掴んできた機会によって得られた経験をされました。また歴が浅い方は、限られた短い時間の中でも得ることのできた自身の成功体験や、反対に入会当時思い描いていた通りに活動できず悔しい思いをした経験をされた方もおりました。そんな卒業生一人ひとりが経験してきたことによって抱いたすべての想いを現役会員が受け継ぐことは、変革期を迎えている盛岡青年会議所にとって必要不可欠であると考えました。 今年の卒業生は、今後の盛岡青年会議所がより良く発展していくことを切に願い、後輩への愛情が溢れ、時には優しく、時には厳しく接してくださる方々でした。そんな卒業生に、青年会議所活動の集大成として現役会員へ想いのすべてを伝えていただき、現役会員が受け継ぐことが明るい豊かな社会の実現につながると考え、「軌跡　～想いをかたちに～」をテーマに掲げ、想いを受け継ぐ機会となりました。

EVENT PHOTOGRAPH

2023年度［各種大会報告］

MORIOKA 2023 笑顔の起点になる

～今と未来を生きる子供たちのために～

京都会議

■事業目的

（対内目的）

- JCI日本2023年度会頭予定者麻生将豊君の所信演説を拝聴し、メンバーの意識の高揚を図ると共に、公益社団法人日本青年会議所との目的を共有すること。
- JCI日本で活躍する出向メンバーを支援し、メンバーがJC運動へのより深い興味や理解を高める機会とすること。
- メンバーが時間と経験を共有することで、連帯意識や結束力を高め、本年度のJC活動に対して互いの協力体制を構築する契機とすること。

■日時・場所

１月20日（金）～ 22日（日）

場所:国立京都国際会館

■事業報告

本年度の京都会議は、新型コロナウイルスの影響もなく多くのメンバーで参加することができました。開催テーマである「Remember Your Dream」～自分の中にある「どうせできない」とあきらめた夢が、仲間とJCを通してなら「実現できる」と気づき、自分の叶えたい本当の夢を思い出し進み始めるきっかけとする～のもと、出向者が担当する委員会を盛岡青年会議所メンバーで参加し応援をしました。また、2023年度の会頭麻生将豊君の所信演説を拝聴し、連帯意識や結束力を深めると共に、本年度のJC活動において協力体制を構築することができました。

2023 JCI ASPAC ジャカルタ大会

■日時・場所

2023年５月10日(水)

インドネシア　ジャカルタ

■事業報告

５月10日(水)から13日(土)の期間で、2023 JCI ASPACジャカルタ大会が開催されました。大会テーマが「SEEING IS BELEIVING(百聞は一見にしかず)」となっており、2019年以来となる海外での現地開催の大会となりました。ジャパンナイトをはじめ、アジア太平洋地域のメンバーに対して日本の魅力発信と国際交流の機会となりました。2024年度はカンボジア・アンコールの地で開催されます。貴重な経験をできる機会ですので、盛岡青年会議所の会員全体で積極的に参加したいと考えております。

第 52 回岩手ブロック大会

■日時・場所

2023年７月８日（土）

花巻市　ホテル花城　花巻市中央広場

花巻市上町商店街

■事業報告

2023年７月８日（土）に「Connect ～夢をつなげて輝く岩手へ～」を大会スローガンとして、花巻の地にて「第52回岩手ブロック大会in花巻」が開催され、盛岡青年会議所からは40名が参加致しました。当日は、地域内経済循環をテーマにした講演や県内青年会議所の理事長３名と岩手ブロック協議会顧問によるクロストークが開催され、多くの学びとなりました。また、花巻市上町商店街では花巻青年会議所による「Stand up 花巻」と題し事業が展開されておりました。花巻市内の学生の発表なども開催されました。天気にも恵まれ、会員一人ひとりにとって多くの学びがあるとともに、地域市民に広く私たちの運動をご理解いただき、ともに岩手の未来を考える場となりました。

サマーコンファレンス 2023

■日時・場所

2023年７月22日(土)

パシフィコ横浜

■事業報告

サマーコンファレンス2023「できなかったことができるようになる、そしてみんなの夢を次のステージへ」を開催テーマに、パシフィコ横浜にて、サマーコンファレンス2023が開催されました。当日は、多くのメンバーが参加し、普段直接話を聞くことができないような有識、著名な方々からのご講演を拝聴するなど、多くの学びを得ることができました。また、当会議所から日本青年会議所へ出向しているメンバーが設営を務めるセミナーも開催されましたが、当該メンバーにおいては、非常に長期間に及ぶ企画、準備を経て、担当するセミナーを大成功に収めるなど、表現することのできないほど大変貴重な喜びと経験を得ることができました。 当会議所メンバー同士の懇親会であるLOMナイトも開催し、互いにサマーコンファレンスで得られた楽しさや学びについて話し合い、大いに親睦と学びを深めることができました。サマーコンファレンスで得た学びを、参加できなかったメンバーに共有することで当会議所に還元し、当会議所がさらなる発展につながっていくよう努めてまいりたいと存じます。

東北青年フォーラム

■日時・場所

2023年９月２日(土)

北上市　北上総合体育館

■事業報告

我々の住まう東北地方では、首都圏への生産年齢人口の流出、人口減少に伴う地域経済の縮小、地域間格差や所得の格差といった様々な課題を抱えております。しかし、東北地域には、多種多様な地域資源に恵まれており、日本全体を先導するポテンシャルが秘められております。そのような課題を解決し、東北地域が持続可能かつ活力のある地域となるためには、東北地域に住む一人ひとりの市民が、地元に対する愛着と誇りをもち、東北地域の価値や魅力を東北地域内外に対して発信することを通じて、東北全体が一丸となって歩みを進めていく必要があります。今年度の東北青年フォーラムは「Next Innovation ～思いやりの心溢れる未来を目指して～」をスローガンに掲げ、結いの精神でつながる魅力的で誰もが憧れる新東北の実現を目指し開催致しました。44名のメンバーに参加いただき東北地区最大の運動の発信を体感することで今後の青年会議所活動の意欲につながる大会となりました。

第 72 回全国大会東京大会

■日時・場所

2023年10月６日(金)

東京ビッグサイト

■事業報告

第72回全国大会東京大会「Bridge over the dreams」をテーマに、第72回全国大会東京大会が、東京ビッグサイトで開催されました。多くのメンバーが参加したこの全国大会では、先端的なテーマのもと、著名、有識な方々によるご講演など、大変貴重な学びの機会が提供されました。 全国大会においては、日本青年会議所の卒業式も執り行われましたが、当会議所の卒業生も、それぞれこれまでの自身の活動を振り返り、残りの期間メンバーに対してどのような学びや経験を伝えるべきなのかを考えさせられる機会となりました。引き続き活動を続けていくメンバーにおいても、残りの期間卒業生に対してどのような形で感謝の意を伝えていくべきなのかを考えさせられる、非常に貴重な学びの場となりました 全国大会で得た学びや経験を、参加できなかったメンバーに共有することで、当会議所の今後の運動にポジティブな影響を与えていきたいと存じます。

2023 JCI 世界会議チューリッヒ大会

■日時・場所

2023年11月14日(火)

スイス　チューリッヒ

■事業報告

11月14日(火)から11月18日(土)に「2023 JCI 世界会議チューリッヒ大会」が開催されました。大会テーマが「Let's Inspire: Challenge the present and create the future」となり、本年度の集大成と次年度へつなぐ世界会議を通じて、各地会員会議所メンバーに国際交流の機会として海外メンバーと友好関係を築き、青年会議所の発展につなげるための事業となりました。 世界会議とは毎年原則的に11月第１週に、開催地を変えて開かれる、JCIにとって最も重要な会議です。会議期間にはNOM会頭会議、常任理事会、理事会、総会といった組織運営に関する会議、世界会議スローガンに基づくセミナー、会員の資質向上を目的とした各種セミナー、分科会が開催され同時に「個人」、「地域社会」、「マネージメント」、「国際性」といった、JCI理念広める為の褒章(アワード)、TOYPプログラムも開かれました。そして閉校式、各種セレモニーが世界会議に花を添え、会頭招待バンケット、ガーラ、ジャパンナイトを初めとする各NOMナイトがあり、参加会員の友情を深め友好の輪が広がりました。

なお、2024年度は台湾・高雄での開催となります。

JCI 2023
WORLD CONGRESS
Zürich Switzerland

EVENT PHOTOGRAPH

2023年度［各委員会及び出向者報告］

MORIOKA 2023 笑顔の起点になる

～今と未来を生きる子供たちのために～

まちの未来創造委員会

委員長　鈴木　亮

当委員会では、本年度理事長が掲げるスローガンである「笑顔の起点になる～今と未来を生きる子供たちのために～」のもと、もりおかに住み暮らす人々と、理想のまちの姿を共に考え、今と未来の子供たちの笑顔が拡がる社会を目指し、運動を展開して参りました。

１月には､当会議所のこれまでの運動に対してご理解、ご支援いただいた方々に対して謝意を伝えるとともに、新年度の理事長所信、組織及び年間事業計画を発信させていただくことで新年度の当会議所の方針や運動を理解していただくべく、新年交賀会の企画・運営を行わせていただきました。ご参加いただいた方々に対し、日ごろの御礼を述べさせていただくとともに、当会議所の新体制へのご理解を賜ることができたのではないかと考えております。

４月には、「持続可能な多機能複合型交流施設を軸とするまちづくり」をテーマに、市民一人ひとりがまちの理想の姿を主体的に考えるための講演会を実施いたしました。全国的に広がりをみせている、「アリーナ･スタジアムを軸としたまちづくり」というまちづくりの手法の一つを学ぶことで、市民の方々にとり、自身の理想のまちがどのようなものであるのかを改めて考えていただくきっかけになると考え、本事業を実施させていただきました。結果的に多くのご参加をいただくことができ、多くの方々からそのようなきっかけになったというお声を頂戴いたしました。

７月には、ＳＮＳを用いた手軽かつ効果的な発信方法についての講演会を企画・運営いたしました。盛岡市が世界的に注目を集めるこの機会だからこそ、市民の方々一人ひとりがもりおかの魅力を世界に発信することでこのまちを活性化させることができるのではないかと考え、本事業を実施いたしました。ご参加いただいた方々にとって、今後もりおかの魅力発信を行っていくためのきっかけを提供できたのではないかと考えております。

この１年間、委員長の立場で、上記事業を企画・運営させていただいて参りましたが、私一人の力では到底やり遂げることはできませんでした。支えてくれたのは、委員会に携わってくれたメンバーのおかげです。委員会関係メンバーだけでなく、他の委員会メンバーにも多くのご協力をいただきました。皆様には、改めてこの場をお借りし、謝意を伝えさせていただきたいと思います。

結びとなりましたが、１年間、非常に貴重な多くの経験をさせていただきまして、誠にありがとうございました。

国際社会研究委員会

委員長　鷲見　保博

2023年度国際社会研究委員会は、小野寺理事長の掲げるスローガンのもと、１年間運動を展開して参りました。

２月の国際社会研究事業では【グローカリゼーションの観点から学ぶ地域振興　～世界でKANPAI !! ～】と題し、株式会社南部美人の代表取締役社長久慈浩介氏を講師にお招きし、地域資源を損なわず循環させながらグローバルに活動を展開し、地域経済の規模を発展させるための方法や、そこに至る大事な想いをお聞きし学ぶ機会といたしました。人口減少に伴い地域経済が衰退していく一方、視野を拡げ、地域ならではの資源を活用・循環させることが地域活性化の第一歩となることを学び、参加された方々の地域の課題やローカルSDGsに対する意識を変革する契機となりました。

本年度、盛岡青年会議所と羅東國際青年商會との長きにわたる姉妹 JC 交流が55周年を迎えました。４年振りに対面での交流が再開され、本年度は相互往来を行いました。７月の受入事業は当会議所全体で行う事業でもありますが、姉妹交流を経験しているメンバーが少なくなっているため５月例会で勉強会を開催し、台湾と盛岡の繋がりや姉妹交流の歴史を学び、相互交流への参加意欲向上に繋げる場といたしました。

６月には羅東へ訪問いたしました。空港でのお出迎えから各行事、お見送りまで盛大なおもてなしを受けたことは、先輩たちが今まで培ってきた姉妹交流の歴史を実感することとなりました。国際交流の意義を理解するには実際に体験することが一番であり、体験した国際交流の意義を継承し、日本・もりおかで体現する会員が増えることが両国の発展に寄与すると考えます。

７月には2019年以来となる盛岡での受入事業となり、姉妹締結55周年式典・祝賀会や盛岡さんさ踊りなどの姉妹交流を盛岡市内各所で行いました。事業実施期間は歴代理事長を始め、特別会員の皆様とたくさんのメンバーにも参加していただき、55名の羅東國際青年商會メンバーと共に盛大な交流事業を行うことが出来ました。特別会員の皆様の羅東交流に対する想いを知る事ができ、長きにわたり繋いできた姉妹交流の重要性を感じる機会となりました。

最後に、１年間私を支えてくれた委員会スタッフと委員会メンバー、常任理事のお二人に深く感謝を申し上げます。そして委員長という役を任せて下さり、成長の機会を下さいました小野寺理事長にも重ねて感謝を申し上げます。また国際社会研究委員会の事業を展開するにあたり、ご協力頂いたすべての方々に委員会を代表して厚く御礼申し上げます。１年間ありがとうございました。

次世代育成委員会

委員長　宮野　洵弥

次世代育成委員会では、理事長の掲げるスローガン「笑顔の起点になる～今と未来を生きる子供たちのために～」のもと、一人ひとりが自身の目的に挑戦し続けながら、持続な可能な社会の実現を目指し、行動できる人材の育成に寄与するべく運動を展開して参りました。

4月例会では、子供と大人の双方が、様々な課題を自分事として捉え、内発的動機付けによって行動できる人材育成を目的に事業を展開いたしました。自分事とするためにローカルSDGsについて学んだ後、次世代を担うもりおかの学生に実際の取り組みをプレゼン方式で発表していただきました。また、より効果的な行動に結びつけるために人生100年時代においての社会人基礎力を学びました。もりおかに住むあらゆる年代・職業の方と学びを共有することで自分事として捉え、行動する意欲と具体的な行動方法を学ぶ機会となりました。

9月事業では、地域資源でもある盛岡城跡公園と櫻山神社で、体験を通して持続可能な社会や環境、これからの生き方や働き方を学び、自身や次世代のためのライフステージを明確にして実現するための行動ができる人材育成を目的に事業を展開いたしました。多くの方々に参加していただき、もりおかに住む方、学生、諸団体、企業、行政、OB先輩方、沢山の方からのご支援ご協力のもと事業を実施することができました。もりおかに住み暮らす方々が一体となり今と未来を生きる子供たちの健全な成長に寄与する事業とすることができました。

先輩が長年継続してくださいましたわんぱく相撲盛岡場所は、今年で35回目を迎えました。今年は、大会の他に現役郷土力士であります錦木関をお招きし、選手が抱える課題についてアドバイスをいただきながら稽古を行いました。また、横綱となった4年生から6年生の選手が参加した全国大会では、男子は、4年ぶりに相撲部屋での宿泊となり、仲間と共に過ごすことで、絆を深めると共に礼節を学ぶ機会となりました。女子は、新潟県新発田市で開催され、選手は自身の力を発揮し、団体3位となりました。また、選手は勝ち負けだけではなく、取組前・取組後の感謝の挨拶をきちんと行い、相手選手への敬意を示していました。男子女子共に盛岡場所では知ることができなかった新たな課題を知る機会となり地域だけに固執しない広い視野を得る機会ともなりました。スローガンでもある勇気・礼節・感謝の精神を養い、新たな成長へと繋がる事業になったと確信しております。

最後になりますが、1年を通して最後まで諦めず支えてくれたスタッフ、時間がない中でも最後まで向き合ってくれた委員会メンバー、いつも応援してくれた小野寺理事長を初めとする青年会議所メンバー、事業でご協力をくださいましたもりおかに住む方、学生、諸団体、企 業、行政、OB先輩方など、一人では叶えることができないことでも沢山の方のお力をお借りすることができれば叶えることができるこの青年会議所の魅力と可能性を実感いたしました。皆様のご協力があり、今と未来を生きる子供たちのために笑顔の起点になれた1年だったと確信しております。1年間本当にありがとうございました。

会員開発委員会

委員長　北條　宏

会員開発委員会は小野寺理事長の掲げるスローガン「笑顔の起点になる～今と未来を生きる子供たちのために～」のもと、変革期を迎えている盛岡青年会議所が今後もまちに影響を与えられる組織へと変革するためにも、まずは会員一人ひとりが前向きに活動する環境を創出すべく１年間運動を展開してまいりました。

３月の会員開発事業では「相互理解を深めよう」と題しまして、会員同士のバックグラウンドを知り、多様性を受け入れる機会とすべく事業を開催いたしました。そこで、本事業では我々の最も身近な存在である家族と同僚をお招きし、互いがどのような環境のもとで青年会議所活動をしているのかを知る機会を設けました。また、出席いただいた家族と同僚の方につきましては、我々の活動について知っていただくことはもちろんですが、それだけでは不満となり家族と同僚との相互理解にはつながらないと考え、日頃の思いを聞く設えを心掛け事業を実施いたしました。本事業を通して、会員同士だけではなく家族や同僚との相互理解を深め、一人ひとりが前向きに青年会議所活動をする一助となれたのであれば幸いです。

６月から７月にかけて開催いたしました盛岡さんさ踊り練習会では、会員同士の仲間意識を高めることと市民との繋がりを強めることを目的とし設営いたしました。単発の事業とは違い、複数回事業を行うことのできる本事業は、会員同士や市民と多くの時間を共有でき、関係構築を図ることができました。本事業が、多くの市民の方に盛岡青年会議所の活動を知っていただける機会となり、会員同士、市民との繋がりが強固なものとなったのであれば幸いです。

８月例会は、８月１日から４日にわたり第46回盛岡さんさ踊りを開催いたしました。盛岡青年会議所にとって盛岡さんさ踊りは、市民と一体となり盛岡のまちづくりに寄与する最大の運動であります。つまり、我々が目指す市民意識変革運動を発信する最大の場です。今年度は、新型コロナウイルス感染症の制限がなくなり４年ぶりの通常開催となりました。盛岡青年会議所は、主催団体の一つとしてこれまで盛岡さんさ踊りに携わって参りましたが、さんさ踊りがどれだけ我々と市民を繋ぐ架け橋になっていたのかを感じさせられる機会となりました。６月の練習会から約２か月にわたり、市民の方と共に盛岡さんさ踊りを通じたまちづくりをできたことは、やはり盛岡青年会議所にとって最大の市民意識変革運動であったと確信しております。

本事業が、市民から盛岡青年会議所の活動に対し理解と共感をいただきながら、盛岡さんさ踊りだけではなく様々な活動の中で市民と協同してまちづくりをしていく一助となったのであれば幸いです。

12月例会卒業式では、今年度16名の方が40歳を迎え、盛岡青年会議所をご卒業されました。現役会員は、卒業生がこれまでの経験からJAYCEEとして培ってきた想いを受け継ぎ、一人ひとりがもりおかの発展に寄与していく自覚と覚悟をもち、今後活動することへより積極的になる機会を設けるべく卒業式を開催いたしました。今年卒業をされる方々は入会年度の幅が広く、歴が長い方は多くの先輩方と共に活動した経験や、自身が自ら掴んできた機会によって得られた経験をされました。また歴が浅い方は、限られた短い時間の中でも得ることのできた自身の成功体験や、反対に入会当時思い描いていた通りに活動できず悔しい思いをした経験をされた方もおられます。そんな卒業生一人ひとりが経験してきたことによって抱いたすべての想いを現役会員が受け継ぐことは、変革期を迎えている盛岡青年会議所にとって必要不可欠です。だからこそ、卒業生に青年会議所活動の集大成として現役会員へ想いのすべてを伝えていただき、現役会員が受け継ぐことが明るい豊かな社会の実現につながると考え、「軌跡　～想いをかたちに～」をテーマに掲げ卒業式を開催いたしました。

最後に、当委員会では成果を上げる組織とはどんな組織なのかを必死に考え、１年間活動してきました。組織を構成しているのは私たち一人ひとりです。私たち会員一人ひとりが青年会議所活動をすることへの目的意識を持ち、前向きに活動していくことがまちにインパクトを与え、成果を上げる組織へと変革していきます。当委員会の運動が、一人でも多くの方に伝わり、誰かの笑顔の起点になれたとなれたのであれば幸いでございます。１年間、ありがとうございました。

JC ブランディング委員会

委員長　髙橋　凌

JCブランディング委員会では小野寺理事長の掲げる「笑顔の起点になる～今と未来を生きる子供たちのために～」のスローガンのもと１年間運動を展開してまいりました。

１月には我々盛岡青年会議所がどういった組織なのか、2022年にどういった運動を起こしたのか、2023年の計画はどういったものなのか等、関係各所に知っていただくためにアニュアルレポート作成を行いました。また同月には広報誌Values特別号の発行を行いました。特別号では八幡平スマートファームの兒玉氏をお迎えし小野寺理事長と対談を行っていただきました。

今年度スタートとなる広報誌ということで理事長のかかげる所信の内容に合致するビジネスを展開している八幡平スマートファームを取り上げることによりメンバーはもちろんのこと市民にも今年度の運動に興味を持っていただける内容となりました。

３月例会の第一回仮会員オリエンテーションを皮切りに年間を通して合計３回行われた仮会員オリエンテーションでは仮会員はもとより正会員にも改めて自身が所属する組織について理解を深めるための事業を開催いたしました。事業を通して様々角度のグループワークから所属する組織について理解が深まった事業となりました。

８月には広報誌通常号を発行致しました。活動する地域を改めて理解して運動を強めていくための広報誌として地域の魅力を再認識するべくガイドマップを活用した内容と致しました。取材には実際にメンバーが足を運んだことで我々の住み暮らす地域を再認識する機会となりました。

岩手ブロック大会、東北青年フォーラムでは岩手県、東北地区の最大の運動の発信の場に参加することで各地青年会議所では味わえない規模の事業に触れることで視野が広がり当青年会議所の運動に還元ができる機会の提供を行いました。

１年を通じてJCブランディング委員会ではインナーブランディング・アウターブランディングをテーマに各事業を行ってまいりましたが、様々な角度から組織を振り返り対外へどのように発信を行っていくのが良いのか考える機会となりました。小野寺理事長の掲げる所信の中で「一人ひとりの行動は、ホームページやSNS、広報誌以上にまちに強烈な印象を与える」という一文があり、強くその言葉について考え取り組むことができた１年となりました。

最後となりますが、日頃より当委員会へご理解ご協力を賜りました多くの皆様､誠にありがとうございました。

組織拡大特別委員会

委員長　髙橋　潤

組織拡大特別委員会では、近年の会員数の減少という組織を存続していく上で避けては通れない課題を乗り越え、より良い組織に変革し続けるために、新たな仲間の輪を拡げる会員拡大に努めてまいりました。

本年度も一昨年に引き続き、全メンバーが会員拡大の活動を自分事として捉えるために特別委員会という形で会員拡大を実施しました。2033年度、期首会員数を200名で迎えるために40名の会員拡大を目標とし、会員拡大に尽力し、16名の仮会員申込みと13名の正会員承認を頂くことが出来ました。これも、ひとえに敬愛して止まない特別会員の皆様、現役会員の皆様、その他多くのステークホルダーの皆様からの情報があってこそ成果が得られたものと確信しております。ご協力頂いた皆様に心から感謝いたします。誠にありがとうございました。

また、何のために活動するのか、なぜ活動する必要があるのか、そして青年会議所の理念に共感する会員を増やすために、計３回のセミナーを開催しました。初めに公益社団法人日本青年会議所公認プログラムであるVMV（Vision、Mission、Valuesの略称）セミナーを開催し、これから事業構築をしていく会員に対して、JCIの目的やJCIクリードの理解を通じて青年会議所が目指す未来、青年会議所でやるべきことや実現できること､そしてその運動の価値等について学んで頂きました。続いて、開催した組織運営セミナーでは、盛岡青年会議所のために私たち会員がいるのではなく、そこに所属する人、一人ひとりに人生の目的があり、その目的を果たすための自己実現の舞台として盛岡青年会議所があると考え、個人の目的から組織の目的を一致させ、個人をどのように発展成長させて学んで頂きました。最後に、一人でも多くの市民の共感を生み、活動することによって得られる発展と成長の機会を認識した会員を拡大するために拡大セミナーを開催しました。近年、在籍会員の６割近くが入会３年未満となっています。在籍年数が短い会員が多くいる中で、私たちが属する青年会議所はどのような団体なのか、改めて認識し、新たな仲間の輪を拡げる機会となりました。

今後もより多くの会員を増やし盛岡青年会議所ブランドを確立しながら、明るい豊かな社会の実現に向けて運動を展開してまいりますので、引き続き皆様からの厚いご支援と、ご指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

公開討論会プロジェクトチーム　リーダー　池野　利彦

本年８月に行われた盛岡市長選挙に合わせて、盛岡市長選挙立候補予定者公開討論会の企画運営を行いました。本年度はプロジェクトチームの体制を敷き、前回の公開討論会を経験したメンバーに加え、４年後もLOMに在籍する若いメンバーを中心にチーム編成しました。政治に関心が高いとは言い難いメンバーの集まりではありましたが、まちに住み暮らす有権者の一人として、当事者意識を持って事業構築にあたりました。 全国的に投票率の低さが問題になっており、若年層をはじめ市民の方々がいかにして選挙、政治に関心を持ち、投票しに行こうと思えるのか、その課題に向き合い準備を進めました。結果、公開討論会への参加人数から判断すると、市民の政治参加を推進するには十分な効果を生み出したとは言えませんが、参加者の中には高校生もおり、若年層の興味関心を高めることに寄与できたと考えます。事業実施前には、大学や高校に協力いただき、盛岡市政に関するアンケートを学生に答えてもらったり、学生との連携として学生の政治参加を促進する学生団体「岩手県立大学 明るい選挙推進サポーター県大Voters」にも協力いただき、街頭インタビューなども行いました。

事業を通じて実感できたことは、青年会議所は公正中立な立場だから公開討論会を実施できるという側面がありますが、立候補予定者に公開討論会の参加をお願いできる立場であるということは、青年会議所の存在価値が認められている証拠であり、社会に根ざしている団体だからこそ行えることだと思います。また、立候補予定者および各陣営の方々と直接お会いする機会がありましたが、本気でまちの未来に向き合って選挙活動されている姿を目の当たりにして、政治の重要性を認識すると共に、まちづくりを行う団体として盛岡市政に関わることは私たちの使命のひとつでもあると感じることができました。このような経験をできるのは青年会議所の魅力のひとつであり、会員の成長に繋がる貴重な機会です。

今後も盛岡青年会議所には市民意識変革運動を展開する団体として公開討論会を実施し続けて欲しいですし、まちに大きな影響を与えることのできる事業になることを願っております。

野球部

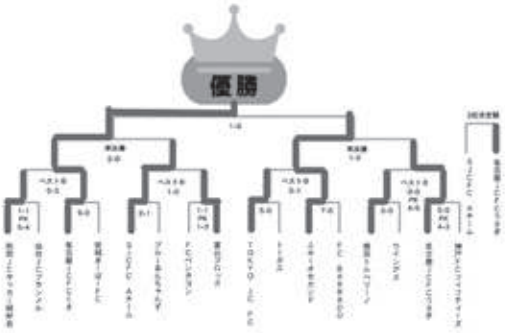
今年度、６月４日（日）花巻市ふれあいの森野球場にて公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会主催の野球大会が開催されました。２年ぶりの出場ということで盛岡JC野球部は全国大会を本気で目指し２度の練習会を経て当日を迎えましたが、第一試合花巻青年会議所VS遠野青年会議所の試合終了後に雨によりグラウンドコンディション不良となり大会中止に至ってしまいました。盛岡JC野球部としては非常に残念な結果となってしまいましたが、岩手県を代表して東北大会に出場する青年会議所を協議しまして、久慈青年会議所が東北大会に出場しました。そして、東北大会を見事に勝ち抜き優勝しまして、初の全国大会への出場を果たすことができました。久慈青年会議所の皆様おめでとうございます。

JC サッカー部

本年は、第39回全国JCサッカー選手権大会富山大会として、公益社団法人富山青年会議所の主管で実施されました。

大会は10月21日（土）、10月22日（日）に開催され、公益社団法人名古屋青年会議所の名古屋JCFCくまが優勝で幕を閉じました。サッカーを通じて、全国の青年会議所現役メンバーとの交流を図ることができるほか、青年会議所の特別会員（OB）の参加も認められていることから、現役会員の枠にとらわれない交流をすることが出来ます。

盛岡チームとして今年も参加することが出来ませんでしたが、来年の大会に向け現役会員、特別会員が一緒になって練習を重ねていきたいと考えております。



2023年度　卒業生名簿

藤　澤　　平　（2009年度入会）

大和田　祐　輔　（2013年度入会）

髙　橋　　潤　（2014年度入会）

菅　原　直　紀　（2015年度入会）

照　井　和　弘　（2015年度入会）

池　野　利　彦　（2015年度入会）

川　村　善　弘　（2016年度入会）

川　村　芳　仁　（2017年度入会）

岩　舘　　尚　（2018年度入会）

小　倉　征　也　（2019年度入会）

細　川　翔　太　（2020年度入会）

千　葉　潤　也　（2021年度入会）

中　村　沙　綾　（2021年度入会）

菅　　洋　介　（2021年度入会）

佐々木　宏　和　（2022年度入会）

橋　本　　敏　（2022年度入会）

2023年度　新入会員名簿

氏　名	勤　務　先	スポンサー①	スポンサー②
中　村　　文　哉	株式会社いわてアスリートクラブ	髙　橋　　潤	小野寺　数　馬
土　井　　康　平	株式会社いわてアスリートクラブ	髙　橋　　潤	小野寺　数　馬
佐　野　　忠　敬	ソニー生命保険株式会社	髙　橋　　潤	山　口　雄　司
佐　藤　　陽　一	2WAY株式会社	小野寺　数　馬	下河原　　伸
藤　倉　　雅　和	ブルーアドバイザーズ株式会社	小野寺　数　馬	下河原　　伸
南　郷　　徳　英	株式会社インベストエイト	髙　橋　　潤	小野寺　数　馬
横　澤　　羽　馬	令和産業株式会社	髙　橋　　潤	照　井　和　弘
舛　澤　　佑　太	株式会社mast	髙　橋　　潤	小野寺　数　馬
錦織　亜希子	株式会社mast	髙　橋　　潤	小野寺　数　馬
髙　橋　　敬　太	髙橋けいた事務所	大和田　祐　輔	高　橋　康　介
森　　達　貴	有限会社シューズモリ	髙　橋　　潤	小野寺　数　馬
阿　部　　周　平	有限会社内丸ビル	髙　橋　　潤	小野寺　数　馬
倉　橋　　瑞　季	小料理屋蓮乃	大和田　祐　輔	小野寺　数　馬

一般社団法人 盛岡青年会議所　2023年度　出向者名簿

■公益社団法人日本青年会議所（６名）

国家グループ　主権者意識向上委員会	副委員長	川村　芳仁
	小 幹 事	髙見　謙輔
	委　　員	大和田祐輔
	委　　員	加藤　巧寛
	委　　員	田口　　輝
	委　　員	伏見　　武

■公益社団法人日本青年会議所　東北地区協議会（３名）

	会務担当副会長	大和田祐輔
	事務局次長	中嶋　政裕
東北ゼミナール特別委員会	委　　員	山内　圭介

■公益社団法人日本青年会議所　東北地区岩手ブロック協議会（39 名）

	副 会 長	小倉　征也
総務広報委員会	委 員 長	照井　敦史
	幹　　事	細川　翔太
	委　　員	内山佳奈子
	委　　員	髙橋　康介
	委　　員	中村　沙綾
	委　　員	鳥居さゆみ
連携推進委員会	委 員 長	晴山　敬俊
	委　　員	小野寺　竜
	委　　員	菅原　直紀
	委　　員	福田　和晃
事務局	事務局次長	村上　千尋
いわてJAYCEEアカデミー委員会	委　　員	赤坂　俊介
	委　　員	伊藤　英佑
	委　　員	内沢　達也
	委　　員	小田島賢太郎
	委　　員	加藤　巧寛
	委　　員	小岩　泰武
	委　　員	越場　慎文
	委　　員	齊藤　大輝
	委　　員	作山　智彦
	委　　員	佐々木天晃
	委　　員	佐々木宏和
	委　　員	佐々木文也
	委　　員	重泉　　愛
	委　　員	鷲見　保博
	委　　員	髙梨　光昭
	委　　員	髙見　謙輔
	委　　員	田中　洋希
	委　　員	田端　　結
	委　　員	田村　光宏
	委　　員	波紫　聖矢
	委　　員	橋本　　敏
	委　　員	羽田　流星
	委　　員	伏見　　武
	委　　員	藤村　慶太
	委　　員	三浦　滉大
	委　　員	宮川　雅好
	委　　員	宮澤　貴明

2023年度　出向者報告

公益社団法人日本青年会議所
国家グループ主権者意識向上委員会
副委員長　**川村　芳仁**

2023年の日本青年会議所は、コロナ前同様に活動制限が無く様々な活動をすることがきました。 出向メンバーとして小幹事に高見謙輔君、委員として加藤巧寛君、田口輝君、伏見武君、大和田祐輔君の総勢６名で出向いたしました。 はじめに１月には、京都国際会館におきまして「京都会議公開委員会」を開催いたしました。委員会の考える主権者教育そして政治的有効性感覚についてお伝えし、１年間の運動の方向性をお示しさせていただきました。

次に７月に開催されましたサマーコンファレンスでは「新・選挙DX進化論」と題してセミナーを開催いたしました。新たな投票方法の調査･提言という職務分掌から、インターネット投票についての提言書を作成するために有識者や国会議員の方々を訪ねて調査を進めて参りましたが、日本国内におけるインターネット投票は当面の間は実現できないという結論に至りました。このままでは人口減少により、公共交通機関や投票所の減少により投票困難者を生み出しかねない状況になることから、投票行動に絞らず選挙領域（投票の前後）のデジタル化を提案しサマコンで調査内容をお示しし、具体的な意見を頂戴いたしました。提言書に関しましては総務省へ提出させていただきました。

そして４月より10月まで６か月間かけて、若年層、特に高校生世代の政治への関心の低さから高校生を対象とし、「第一回全国高校生政策甲子園」を開催いたしました。全国より102チーム406名の高校生にエントリーをいただき、書類審査をへて７月28日には国会議事堂参議院会館講堂をお借りして本選大会を行い、決勝大会はインターネットによる国民投票を行い、多様な世代の国民より4869票の投票をいただき最優秀チームを決定いたしました。この事業は「わんぱく相撲」や「JCカップサッカー大会」のように今後も継続される運動の起点となることができました。出向することにより、盛岡青年会議所では経験できないことがたくさんあり、自身の成長へ繋ぐものとなりました。出向に際しまして、お力を貸してくださいましたすべての方々に感謝し、出向者報告とさせていただきます。貴重な機会をありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所
東北地区協議会
会務担当副会長　**大和田祐輔**

本年度、東北地区協議会では、「LINK」をスローガンに「結いの精神でつながる魅力的で誰もが憧れる新東北の実現」を基本理念に掲げ、東北地区内全ての青年会議所を双方向でLINKさせ東北地区協議会だからこそできる運動、そして連絡調整機関として全ての青年会議所、ブロック協議会のサポートを展開して参りました。私は会務担当副会長として総務委員会を担当し、具体的には、1.各種会議の設営及び庶務全般と議事録の作成及び管理、2.提出議案のとりまとめ、3.東北地区役員名簿、名刺の作成、4.バーチャルとリアルの両立についての調査・研究、5.東北地区協議会の立ち位置の確立、6.GianPocket の利用促進の６つの職務分掌を担当しました。様々な変化が加速するなかで円滑な組織運営が求められており、各種会議の運営を行う盤石な組織体制を確立するだけでなく、東北地区協議会として、新たな組織運営や会議設営の方法を模索した１年でありました。東北地区協議会を表現すると「多様な価値観をもった東北を愛するメンバーの集合体」と言えます。まちの誇りと青年会議所のプライドを背負って出向されているわけですから当然意識は高く、時にぶつかることも多々ありました。１年を通して学んだことは、各地域の違いや規模の違いはあれ、大前提として青年会議所が地域でどう在るべきかを自覚し、組織として理念を共有しながら一貫した運動を展開しなければならないことです。そのためには仲間とのつながりだけでなく、やりがいの創出、メンバー一人ひとりの自己実現が必要であることを改めて認識しました。この学びは社会の課題解決にもつながります。今後の人生に活かすことで盛岡青年会議所に恩返しが出来ればと思います。出向の機会を頂き心からの感謝を申し上げます。一年間本当に有難うございました。

公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会
東北ゼミナール特別委員会

委員　**山内　圭介**

2023年度東北地区協議会東北ゼミナール特別委員会に委員として出向させていただきました。本年度東北ゼミナール特別委員会としては、「誰もが憧れるトップリーダーが続々と誕生し、夢が見つかる最高峰の調査研究機関」として、３つの担当ゼミに分かれ社会課題に向けて調査研究し、各講座で発表をさせていただきました。

私の担当ゼミは東北各地の青年会議所からメンバーが８名集まり、「脱炭素社会実現に向けた地域や企業への理解促進、普及支援及びモデル事業の研究と発信」をテーマにカーボンニュートラルへの意識調査から現状、今後の取り組みについて調査研究し、東北各地で積極的に推進していくカーボンニュートラル推進パートナーシップに繋げていきました。

年初に東北各地の理議長にカーボンニュートラルに対しての意識調査アンケートを実施した結果、前向きに取り組む予定のある青年会議所がとても少ないのが現状でございました。それを踏まえた上で担当ゼミとしては、３月にZOOMにてカーボンニュートラルへの基礎講習を実施し、なぜ取り組む必要があるのかを学び機会を提供しました。５月には秋田県由利本荘市にて担当の第二講座「絶対にCO_2をオフセットする温泉宿１泊２日の旅in由利本荘」を実施し、ボードゲームやフィールドワーク、座学を通して、実際に住み暮らす町のどんなところに温室効果ガスの排出がされているのか、またどんなところでCO_2を吸収しているのかを実体験いたしました。日本政府では2050年までに脱炭素社会を目指しております。これを達成するためには、一人ひとりが少しばかりの意識を変えて生活していく必要があります。世界では地球温暖化による被害を受けている国や地域は多くあります。その現状を自分事として取り組んでいくことは世界の多くの人々を助けることにも繋がると考えます。今回出向する機会を頂きまして、私自身も多くの学びを得ることができました。そして何よりも東北各地の多くのメンバーと交流を深めることができたことは、生涯にわたる財産となり、貴重な時間を過ごすことができたと考えます。このような出向する機会をいただき理事長はじめ盛岡青年会議所の皆様には感謝をいたします。この出向の経験を盛岡青年会議所に還元し、地域や世界の社会課題に向けて自ら行動をしていきたいと思います。

公益社団法人日本青年会議所
東北地区岩手ブロック協議会

副会長　**小倉　征也**

2023年度、公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会の副会長として出向させていただきました。担当した委員会はLOM支援委員会になります。2023年度の岩手ブロック協議会は安部修司会長のもと「結いの精神でつながる多様な魅力が溢れる岩手の実現」を基本理念とし、「Be the Shine ～燦々と輝く 13の魅力が岩手を照らす～」をスローガンに1年間運動を展開してまいりました。担当したLOM支援委員会では「LOMの実情に合わせた支援体制の構築」を基本方針として、予定者の段階には岩手県内13の青年会議所の理事長にアンケートを実施し、早期に青年会議所が抱えている課題を確認しました。そのアンケート結果をもとに県内各地の理事長及び専務理事に対面でのヒアリングを行いました。そしてそのヒアリングの内容から、必要に応じて公益社団法人日本青年会議所組織グループLOM支援委員会とも連携しながら解決の支援を行ってまいりました。時には事業の動員や手伝い等の直接的な支援も賜り、県内13青年会議所が地域に根差した効果的な運動につながるよう最適な支援を心掛けて活動してまいりました。また、8月9日には盛岡市にて未来を担う若年層の政治参画意識の向上を図るため「いわて高校生政策甲子園2023」を開催いたしました。申込みには岩手県内10の地域から15チームの高校生が自分の住み続けたいまちをテーマに政策の作成を行い、プレゼンテーションを実施しました。この事業を通じて次代を担う若者が、自分たちのまちを調べ、考えることにより、新たな魅力を知り、気が付いたりすることで、地域に対する愛着と政治への関心が高まったことと確信しております。また、地域のことを考える高校生の行動を見た私たち大人たちも地域を見直すきっかけとなったものと感じております。そして、同日には同会場にて「岩手県知事選挙公開討論会」の設営も担当いたしました。特定の立候補予定者や政党、特定の主義・主張に偏らないよう、公平中立な公開討論会の運営を心掛けて開催いたしました。立候補予定者の政策や考えを伝えることで、有権者は立候補予定者の政策や人柄を知ることができ、まちの今と未来を考えるきっかけとなったものと感じております。兎にも角にも1日2事業という無謀な挑戦とも思われましたがLOM支援委員会メンバーの献身的な協力があり、滞りなく開催することができたことをこの場をお借りして心から感謝申し上げます。そして最後に、副会長という身に余る大役を預けていただき、岩手ブロック協議会の活動に対して暖かく見守り、支えてくださった小野寺数馬理事長には心から感謝申し上げます。

公益社団法人日本青年会議所　東北地区
岩手ブロック協議会総務広報委員会

委員長　**照井　淳史**

本年度の総務広報委員会の職務分掌は、諸会議の設営・運営・庶務及び資料・議事録の作成とHPやSNSを活用した岩手のJCブランディングする戦略的な広報活動、新春のつどいと役員謝恩会の設営が担当となります。

主な活動としてはHPやSNSの広報になります。１年間のブロック活動を残したいと考え、活発に開催される委員会での活動、ブロックの事業など広報活動をしました。岩手ブロック協議会の活動を岩手県内13青年会議所の皆さんに対して理解いただく、その手段を総務広報で担っていると考え投稿をさせて頂きました。11月現在でHPお知らせ（70件）、活動報告（130件）と多くの事業を紹介できました。また、今年は県内の青年会議所の活動へも範囲を広げて広報させて頂きました、現地へ伺わせて頂いたり、取材させて頂いたりと各青年会議所での事業報告を岩手ブロックでも広報をさせて頂きました。特にも、SNS活動まで手が回らない青年会議所へは積極的に広報をさせて頂きましたし、対外の方が多く興味を持つ事業であるJCサッカーや高校生政策甲子園についてはより早くSNSやホームページへの広報をさせて頂きました。より多くの人に岩手ブロックの活動を示すため活動ができました。

また、新春のつどいや役員謝恩会の運営、会場設営も担いました。今年の総務広報委員会は議案の作成がありません、そんな総務広報委員会が担ったことは積極的な広報活動とブロック活動の始まり（新春のつどい）とブロック活動の締め（役員謝恩会）を無事に終わらせることが責務であったと考えます。ただの出向で終わるのか、どういった状況でも学びを作るのは自分自身の行動と意識です。 安部修司会長が言っておりました、少しでも来年への土台（スタート位置）が上がる引継ぎをこれからも意識していきたいと思います。

公益社団法人日本青年会議所　東北地区
岩手ブロック協議会　連携推進委員会

委員長　**晴山　敬俊**

今年度、公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会連携推進委員会に委員長として出向させていただき様々な活動を行ってまいりました。結いの精神を基本とした理念共感拡大から日常の行動や事業構築に反映し具体的に組めるよう意識する事を目的として、理念共感拡大セミナーとして「理念の浸透した組織」をテーマに講演の開催、ならびに拡大に成功している青年会議所の会員拡大発表会を３月に行い、理念浸透から会員拡大に向けた情報共有を行いました。４月には会頭公式訪問を開催し、公益社団法人日本青年会議所の麻生会頭をお迎えし、県内13青年会議所の理事長と本当の意味で膝を突き合わせた意見交換を行い日本青年会議所と各地青年会議所の垣根を超えた交流をしていただきました。７月初旬には広い視野をもった社会性を育み、相手を思いやる心と地域愛をもった心の豊かさ溢れる人材を育成するために「JCカップU-11少年少女サッカー全国大会岩手県予選大会」を開催。また７月中旬に、隣県の秋田県においてに豪雨災害が発生し、東北地区と連携した災害ボランティア活動として物資ならびに人的支援を行ってまいりました。連携推進委員会は対内から対外まで、日本青年会議所から各地青年会議所まで、そして地域の方々までともに連携をした委員会で、社会の課題に直接触れた活動は本当に学びの多い１年となりました。岩手ブロック協議会は一番身近な出向先であり、県内各地に仲間を増やしながら所属青年会議所の活動にも貢献できる貴重な出向先であります。是非、皆さんも出向し仲間を増やして青年会議所活動を楽しんでください。最後に今回の出向の機会を提供していただきました小野寺理事長、連携推進委員会に出向いただいたメンバー、国際社会研究委員会の鷲見委員長をはじめとする委員会メンバーには心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所　東北地区
岩手ブロック協議会いわてJAYCEEアカデミー委員会

塾生　**加藤　巧寛**

公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会の「いわてJAYCEEアカデミー委員会」は、岩手県内13青年会議所に属する入会２年未満の会員が一堂に会し、事業を通じての結束と人材育成を目指す舞台となります。この度、高橋塾の塾生としてそこに参画する機会を得られたことは、私の青年会議所活動における貴重な一頁を飾ります。アカデミーの１年間は、開校式から始まり、運営陣や塾生たちが初めて顔を合わせ、互いに交流を深めます。また、日本青年会議所前年度会頭の中島土氏から、私たちがJAYCEEとしてどのようにあるべきか、その指針を示す記念講演を拝聴しました。アカデミーでは、全４回の講座を通じて、大船渡市の地域課題の抽出から具体的な解決策の議論、地域の魅力を再発見する企画の実行に至るまで、実践的な事業構築を行います。最終的には、それぞれの事業の成果を検証し、閉校式での発表が行われます。この場は、青年会議所活動歴が浅い仲間たちが、共に苦楽を分かち合いながら成長を遂げる特別な時間であり、ここでしか得られない経験と価値があります。この１年間を通じて、私自身も計り知れないほどの充実感と成長を得ることができました。一度きりのアカデミーへの参加は、特別な経験をもたらし、その経験が青年会議所活動だけでなく、私自身の人生にも色彩を加えてくれます。ここで得た経験は、今後の青年会議所での活動はもちろん、私の人生においても貴重な財産となるでしょう。これらの経験を次なるステップに生かすことを心に誓い、出向者報告とさせていただきます。

2023年度［監事講評］

MORIOKA 2023 笑顔の起点になる

～今と未来を生きる子供たちのために～

監事　小倉　征也

2023年度、盛岡青年会議所は小野寺数馬理事長が掲げた「笑顔の起点になる～今と未来を生きる子供たちのために～」をスローガンに１年間運動を展開してまいりました。2023年度は新型コロナウイルス感染症も５類へと移行し季節性インフルエンザと同様の取扱いとなったことで理事会や委員会が対面とオンラインを併用し、より充実した議論が展開できるようになり節目の年であったと感じております。そして数年ぶりに大々的な懇親会や特別会員との交流会も開催することができ、個々が希望に満ちてJC活動ができた１年間だったと印象を受けております。１月には「2023年ニューヨークタイムズ紙が選ぶ世界で行くべき52ヶ所」に盛岡が選出されたこともあり、「盛岡」を名乗る団体として、メンバー自身が持続可能なまちづくりのため、新たな取り組みにチャレンジする意欲が更に高まったのではないかと感じております。この１年間は、監事という立場で盛岡青年会議所メンバーが如何に、楽しく、生き生きと活動できるのかを考えて過ごしてまいりました。現役会員の60%以上がコロナ禍以降に入会をした中で「笑顔の起点になる～今と未来を生きる子供たちのために～」というスローガンをもとに、一人ひとりが同じ志を持つ仲間と出会い、勇気をもって向き合い、時には考えをぶつけ合いながらも絆を深めることができたのは、互いに助け合い、尽くしたからこそ生まれたものと実感しております。これからも多様性を享受し、人間力を高め合いながら、まちの未来をより良く繋いでいく組織を創造することが、人々の笑顔を生み出し、住み続けたいまちへとつながっていくものと思います。最後になりますが、今年度実施した事業に対してご支援、ご協力を賜った特別会員の皆様、そして関わった全ての皆様に感謝を申し上げ、今後の盛岡青年会議所の更なる発展を心から願い、監事講評とさせていただきます。

１年間ありがとうございました!!

監事　川村　芳仁

2023年度、小野寺理事長の掲げるスローガン「笑顔の起点になる」のもと監事という役割をお預かりし、客観的視点から盛岡青年会議所を見ることができました。2020年より蔓延した新型コロナウイルスの影響があり多くの事業が中止や仕様変更に追い込まれた中、ワクチンの接種が進み、コロナウイルスが５類へ引き下げられたことから、2023年度はコロナ禍以前のように、更にはコロナ禍前以上に様々な活動ができる一年となり、盛岡青年会議所メンバー、特にもコロナ禍で入会をし、満足に活動が出来なかったメンバーに関してはとても多忙で、とても充実した一年になったのではないでしょうか。

本年度、特筆すべき事業として、羅東国際青年商會との６年ぶりの相互交流がございました。例年であれは、渡航の年、受け入れの年と交互に交流を行ってきましたが、昨年、一昨年と交流が出来なかったことを払しょくするかのように５月に渡航し７月には受け入れを行いました。理事長の思いの元、ご理解をいただき叶えてくださいました皆さまへは感謝しかございません。誠にありがとうございました。９月には、次世代育成委員会の行った新たな事業としまして、盛岡城跡公園を利用し市民の皆さまと行う事業も行いました。盛岡青年会議所という団体の発信がSNSのみならず、このような形で認識していただき、青年会議所としての益、地域益、社会益と様々な益もあり、今後のもりおかにおいての運動の起点と感じる事業でもありました。しかし、各事業に共通するところとして、初動の遅れや、各種式典などの事業に関しては準備不足や引継ぎ不足による課題の残るところもありました。しっかりとした引継ぎを作成し、次代に残していただきたいと思います。盛岡青年会議所のメンバーが考え新たに挑戦して行う運動こそが、明るい豊かな社会、ひいては持続可能なまちもりおかに寄与すると信じております。活動を通し自身のエンジンを大きくしてくれる団体こそが盛岡青年会議所ですが、活動を行なわないことや役職を断っていくことで様々な機会の提供を失うとともに、自身の成長も無くエンジンも大きくなりません。盛岡青年会議所に入会した時点で一歩踏み出しています。ぜひできる限りの背伸びをし、今後も挑戦し続けていただけることを、心から祈念し監事講評とさせていただきます。一年間本当にお疲れさまでした。

監事　照井　和弘

理事長所信に基づき、夢の実現に向けて目標となる基本方針を掲げ、喜びや痛みを分かち合い、一丸となり市民意識変革運動を展開できた一年間だったからこそ皆さんは最高到達点まで行けたのだと思います。当初、委員長陣は個人プレーに走るがゆえに激務となり、悲壮感を漂わせていました。組織運営セミナーや担当常任理事の助言は活かされているのか、リーダーシップとは何かを疑問に感じる場面が多々ありました。しかし報告議案が多くなる頃には、委員長をはじめとして委員会全体の雰囲気がよくなり、メンバーと協力し合い活動している姿が増え、委員長のマネジメント力と求心力が発揮されていました。また、コロナによる行動制限が緩和され、普段の日常を取り戻し始めた今年は、対面で会うことが多くなり、多くのメンバーがJCルームに集い、会議によって意見の集約がなされておりました。同じ目的に向かう強い意志によって切磋琢磨する姿からは、人間力の高め合いを感じることができました。

昨年から続くロシアとウクライナの戦争は未だ終わりをみせていない中、パレスチナ問題が深刻化する等、世界情勢の変化が我々の生活に与える影響は多大であり、世の中の出来事に当事者意識が強くなりやすい状況だからこそ、一人ひとりができることは何なのかを考えて過ごしていたのではないでしょうか。羅東国際青年商會との４年ぶりの対面交流では、コミュニケーションの重要性をより感じることができました。対面交流を再開できた今年は記念すべき年となり、また新たな一歩を踏み出したのだと思います。一人ひとりの意識変革は国境を越えて、世の中をより良い方向へ変える力となることを再認識し、我々がこれからも運動を積み重ねていくことで明るい豊かな社会は実現するのだと確信しました。その実現のために、これからもまちを良くしようと行動する若者をつくり、つなげ、拡げていってもらいたいです。

私個人としては監事の役職をいただき、ラストイヤーでも新しい体験をすることができました。それは盛岡青年会議所を俯瞰できたことです。私はこれまで盛岡青年会議所で色々な役職を担って活動してきましたが、これまでの自分の活動の答え合わせをしているように感じるところがあり、会のみでなく自分自身を振り返ることができました。振り返るたびに、自分を応援してくれるひとの大切さを改めて感じました。そのような監事の役職をいただけたことに心から感謝いたします。

最後に、５委員会の目的達成が束となり、一人ひとりが笑顔の起点になれたこと、メンバーにとって良き１年となりましたことにお祝いを申し上げ監事講評とさせていただきます。

2024年度事業計画

CONECTING
2024

活力の循環を生み
挑戦の輪を広げよう

ーひとが共に寄り添い前向きに生きるためにー

CONECTING 2024

活力の循環を生み挑戦の輪を広げよう

ーひとが共に寄り添い前向きに生きるためにー

活力の循環を生み挑戦の輪を広げよう
～ひとが共に寄り添い前向きに生きるために～

もりおかで生まれ育った私は幼少期にサッカーの魅力に触れ、青年会議所の機会提供によってプロのサッカー選手になりたいという夢を描き、挑戦することができた一人の少年でした。高校時代には地元を離れ単身でサッカーの強豪校へ進学し、自らを厳しい環境に置くことで、夢の実現に向けて挑戦し続けました。挑戦する過程で、仲間と共に目標をもつことでどんな困難でも乗り越えていく力の尊さを知ると共に、他者を思いやる心の大切さを覚えました。またブラジル遠征の際にスラム街で貧しいながらもサッカーを楽しんでいる少年たちの実情を目の当たりにし、日本の豊かさを認識するのと同時に、夢の実現に向けて真摯に取り組み続ける決意をすることができました。ところが夢への挑戦は、気持ちだけではどうしようもできない出来事によって終わりを迎え、私は夜な夜な涙を流す絶望的な苦しみと挫折を経験しました。それでも立ち直り、社会人として新たな夢を描き、目標を据え、新たな一歩を踏み出すことができたのは、家族や仲間の支えと後押しがあったからです。他者から助けられた経験があったからこそ、今の自分はどんな時でも困っているひとに手を差し伸べ、優しく寄り添うことができます。これからも自分自身が誰かの支えとなり挑戦を後押しできる存在となるべく、己を律し、夢の実現に向けて挑戦を続けていきます。

私が生まれ育ったもりおかは、随所に歴史的な建造物と文化が融合した街並みに風情があるとともに、祭りや市(いち)が賑わい、少し足を延ばすと雄大な自然が広がります。豊かな自然環境がもりおかの文化や住まう人々の生活を育み、ひとの交流がまちに活気を与えています。この地に住む人々は自然の恩恵に感謝を忘れず、そして他者を思いやる心を有しています。過去から紡がれてきた文化と意思は、まちに息づくコミュニティによって脈々と次代へ受け継がれていきます。コミュニティはひとの繋がりによって形成され、ICTの急速な進化によって世代や地域の枠を超えた交流が可能となり、その役割は多様化しています。幅広く且つ即座に交流が可能なインターネット上での繋がりと、関わるひとの共感を得やすい直接的な交流による繋がりの双方によって、まちに住み暮らす人々の交流がより活発となりコミュニティに賑わいが生まれます。この賑わいは、新たな交流の呼び水としてまちの活性化の一翼を担います。コミュニティの輪が広がっていくことにより、もりおかはひとの繋がりに溢れる魅力あるまちになります。

ブラジルで目の当たりにした光景から20年余り過ぎた今、世界はどのような現状となっているのだろうか。生活の豊かさを追い求めた人々の思想や行動は、結果的に温室効果ガスを大量に排出し、地球温暖化による気候変動や異常気象が多くの自然災害を誘発し、各地で多大な影響を及ぼしています。また、国家間や民族間、政治的な対立による戦争や紛

一般社団法人盛岡青年会議所　2024年度　第72代理事長
山内　圭介

争、内戦は依然として無くならず、争いがもたらす破壊は生命(いのち)や財物を理不尽に奪い、多くのひとに負の感情をもたらしています。そして、世界的な感染症が多くの生命(いのち)を奪うだけでなく、ひとの直接的な交流や往来を途絶えさせ、経済を停滞させる一因となっています。これらの環境、社会、経済の問題が要因となり無用な貧困を生み出しています。貧困は、人権侵害・教育格差・健康被害・ジェンダー不平等などあらゆる問題の原因となっている世界共通の課題です。日本においては、所得格差による相対的貧困率が先進国の中で一番高い結果となっており、特にも貧困が引き起こす教育格差は子供たちの可能性を阻害し、十分な教育を受けることができないことから、大人になっても貧困で苦しむという負の連鎖を招いています。また、ジェンダー平等についての取り組みは浸透しつつも、性的マイノリティについての理解は依然乏しいなど、今もなお多くの問題が残っており世界から後れをとっています。世界や日本における様々な問題は、国やひとがお互いを尊重しながら取り組まなければなりません。

私が思い描く「明るい豊かな社会」とは、ひとが共に寄り添いながら生きることができる社会です。ひとは社会の中で繋がりが分断された時に孤独を感じ、生きることに希望がもてなくなりますが、他者が寄り添い支えることによって、孤独感から解放されます。そして互いの想いに共感し合い繋がりが強くなっていくことによって、前向きな感情も芽生えてきます。その前向きな感情こそが自身の夢を描き新たな一歩を踏み出そうとする想いとなり、挑戦の始まりとなるのです。挑戦していく過程で困難な壁にぶつかる時もありますが、他者の支えや後押しによって乗り越えた時にひとの優しさや思いやりを感じることができ、ひとの温かみが新たに挑戦するひとを支えようとする感情を芽生えさせます。そうすることによって、活力の循環が生まれ挑戦の輪が広がります。ひとが共に寄り添いながら生きることは、自分が支えられていると同時に、誰かの支えにもなっており、互いの想いに共感し合うことにより、前向きなひとが溢れる地域となり、明るい豊かな社会が実現します。

盛岡青年会議所は、時代に先駆けもりおかをより良くするために運動を展開してきました。運動を通して様々なバックグラウンドがある会員と繋がり合えることは、盛岡青年会議所の最大の魅力となります。その繋がりは、青年会議所活動を行う中で困難を共に乗り越えた時に心から信頼できる強い絆で結ばれる仲間となります。入会当初未熟であった私は、青年会議所の活動を通して多くの学びと繋がりを得ることによって、仲間と共に成長することができました。同じ志をもつ仲間への尊敬と憧れが自身の活力となり、社会活動や社業においても挑戦するきっかけとなるのです。仲間と前向きに行動を起こしていくことは、地域を牽引するリーダーとしての自覚が芽生え、また能動的に一丸となって青年会議所活動を行っていくことが市民意識変革運動の一歩目となります。だからこそ、ここでの出会いを自身への活力とし、繋がりの輪を広げながら共に輝く未来を創り地域を盛り上げていこう。

【組織を牽引するリーダーとして社会課題の解決に向けて、青年会議所の理念に共感する仲間を増やす】

盛岡青年会議所には、社会課題を解決へと導くことによって、まちをより良くしていこうと新たな挑戦へ踏み

出す活力があります。この組織は、まちの未来を創出すべき青年経済人が在籍しており、各々が個性を活かし切磋琢磨しながら運動を展開しています。所属する会員は、組織に多数の会員が在籍することによって多様な価値観の中で活動することができます。価値観を受け入れ互いに尊重することにより、活動することへの刺激となり一人ひとりの成長に相乗効果が生まれます。セルフ・アウェアネスを高め、他者に自身の弱みを隠すことなく自己開示することにより共感や信頼が築かれ、組織を牽引するリーダーへと成長することができます。40歳までの限られた活動期間が設けられている組織が、まちをより良くするために市民意識変革運動を展開し続けてこられたのは、在籍するメンバーが盛岡青年会議所の運動の意味や活動することにより、得られる本質的な価値に共感し活動を続けてきたからです。だからこそ仲間を増やし続け、組織の価値を高めていく必要があります。会員同士の成長を促し、組織を牽引するリーダーとして社会課題の解決に向けて、青年会議所の理念に共感する仲間を増やします。

【国際的な視点から当事者意識をもって課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現を目指す】

今世界では、国家間の争いによる難民問題や地球温暖化が引き起こす環境問題など、国境を超えて解決しなければならない様々な問題が存在しています。私たちは、不当に影響を受けている人々がいるという理不尽な現実を理解し、世界で起きている問題に対して一人ひとりが当事者意識をもち、解決に向けて取り組んでいかなければなりません。問題を抱えている相手の立場を理解し、思いやる心をもちながら自身の主張を展開していくことは、個人間や組織間、国家間でのコミュニケーションにおいて、民間外交を前に進めていく上で重要な要素となります。盛岡青年会議所では個人の成長と地域の発展のために、長きに亘って民間外交を推し進めてきた経緯があります。民間外交は、歴史や文化の違いをもったひととの交流を通して国際的な視点が培われ、両地域間で抱える課題を共有することにより、自身の価値観を拡げることができます。そして、お互いを思いやり、尊重し合う心が言葉の壁を越え、気持ちが通じ合うことによって繋がりが深まることを実感することができます。世界規模の問題を解決するために、国際的な視点を身に付け当事者意識をもって課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

【ソーシャルインクルージョンを実現し、誰もが住み続けたいと思える魅力溢れるまちを創る】

私たちの住み暮らすまちは、ひとの交流によって活気づき発展してきました。ひととひとが繋がり、支え合い、活発に交流することによって地域コミュニティが形成されます。地域コミュニティは、相互扶助による伝統文化の継承や発展、まちづくりといった地域にとって重要な役割を果たしてきました。そして、あらゆる世代が能動的に活躍できる機会を創出することは、まちに住み暮らす人々の交流がより活発になり、新たな繋がりが生まれます。世代の枠を超えて差別や偏見のない、誰一人排除されない地域コミュニティを形成しなければなりません。そのために、生活困窮者やチャレンジド、国籍の違いなどのあらゆるマイノリティを認め合い、自身の価値観を他者と共感していける環境と、外見だけでは知ることができない内面的な心に寄り添うことにより、住み暮らす全てのひとが前向きになる必要があります。選択肢が多様化している現代において、全てのひとが支え合うことは、分断による孤独感を解放し、恒久的なひととの交流を可能にします。私たちは、もりおかのこれまでの文化と伝統を大事にしながら、ソーシャルインクルージョンを実現し、誰もが住み続けたいと思える魅力溢れるまちを創ります。

【活力が溢れるもりおかを目指し、主体的に行動ができる子供たちを育成します】

いつの時代においても子供の可能性は無限大であり、自ら興味のあることに取り組み続けることによって、主体性を培い精神的に自立した大人に成長していきます。そして目標に向かって行動する力と困難を乗り越えていく力が身に付くことにつながります。子供は各々限られた環境の中でも、興味のあることに触れ合い、夢中になりながら自身の心を奮い立たせ、夢の実現のために自ら行動していく必要があります。その行動が自身の価値観を拡げ、創造性を豊かにし、自ら描く未来の予想図を明確にすることができるからです。前向きに挑戦する子供の想いに寄り添い、共感し後押しするひとが現れることにより、子供たちはたとえ困難な状況になっても乗り越

えることができ、夢の実現に近づくことができます。そしてその挑戦する姿は世代を超えた人々に活力を与えることとなります。だからこそ私たちは、経済や社会の情勢がどのように変化しようとも、子供たちが興味をもてることに触れる機会を創出しなければなりません。子供たちが興味のあることへ主体的に取り組み続け、自身の可能性を最大限引き出すことが、もりおかの次代を担う人材となります。活力が溢れるもりおかを目指し、主体的に行動ができる子供たちを育成します。

【子供たちが夢に向かって新たな一歩を踏み出すために全国大会の誘致を目指す】

スポーツは目標に向かって仲間と切磋琢磨しながら相手と競い合い、喜びや悔しさを経験しながら、自己成長と協調性を育むことに貢献します。更には、勝ち負けに一喜一憂せず、試合への取り組み方や過程にも焦点を当て、自身の親や対戦相手など関わってくれた全てのひとに感謝とリスペクトの心をもつことによって、互いを支え合い他者を重んじる人間形成にもつながります。そして、観るひとに感動と活力を与えてくれます。「第36回わんぱく相撲盛岡場所」では、スポーツの素晴らしさを感じ、夢を描き、目標に向かって挑戦する新たな一歩を踏み出す機会を創ります。

また、私たちはより多くの人材の成長と地域に活力の機会となり得る「わんぱく相撲女子全国大会」の誘致を目指します。この大会がもりおかで開催されることは、もりおかに住み暮らす人々が、全国の相撲競技者や相撲ファンとともに興奮や感動を味わい、地域に活力をもたらす機会と考えます。そして、多くの来場者を迎えることによって地域経済に貢献をもたらすとともに、誘致活動から事業実施に至る準備の過程で得られる経験は、私たち自身の学びとなります。スポーツを通したひとづくりとまちづくりによって、まち全体に活力を与える機会の創出を目指します。

【青年会議所と市民を繋げ、より多くの共感を生み出す戦略的な広報を実践する】

盛岡青年会議所の展開する市民意識変革運動は多くの市民を巻き込むことによって運動の価値を高めます。まずは私たち自身が自らの活動に誇りと自信をもって身近なひとを巻き込んでいくことが重要です。そして、私たちの活動を市民の方々に知ってもらい、共感を得ることによって、盛岡青年会議所の存在意義がポジティブに認知され、運動の価値を高めていくことができます。そのために必要な要素として、私たちがホームページの重要性を認識することと、より多くのひとに伝えることができるSNSを活用した戦略的な広報が重要となります。ICTを活用したデジタル戦略が功を奏し、直接的な交流へ結びつけることができると、コミュニティに賑わいが生まれます。そして、そこから共感を生み出すためには活動一つ一つの目的を正確かつ明瞭に市民に伝えることが重要ですが、均一的で単発的な伝え方ではひとの心に留(とど)まる情報発信とはなり得ません。発信する情報の質やターゲットに合わせて、事業を担当する委員会とフレームワークを構築し、集客から事業実施、事業実施後の報告まで、不特定多数のひとへの発信と特定のひとへの配信を、目的をもって繰り返し、より多くの共感を生む戦略的な広報を実践します。

〈未来構想特別委員会〉

盛岡青年会議所は明るい豊かな社会を目指し、常に社会課題に向き合いながら運動を展開してきました。時代が目まぐるしく変化していく中でより大きな運動を展開していくためには、組織のあり方を協議し、メンバー一人ひとりの意見と考えを抽出していく必要があります。会員拡大の短中期ビジョンを明確にし、地域にインパクトを残す運動を展開するための会員数と予算がどの程度必要かを協議し立案します。また、失ってはならない青年会議所活動の本質を保ちつつ時代背景に合わせた組織運営のあるべき姿を検討し、能動的に活動するメンバーを増やすべく組織運営マニュアルを策定します。

一般社団法人 盛岡青年会議所　2024年度

スローガン

活力の循環を生み挑戦の輪を広げよう
～ひとが共に寄り添い前向きに生きるために～

基 本 理 念

ひとが共に寄り添いながら生きることができる社会の実現に向けて、互いの価値観を共感し、ひととの繋がりを強め、新たな一歩を踏み出せる環境を創る。

基 本 方 針

組織を牽引するリーダーとして社会課題の解決に向けて、青年会議所の理念に共感する仲間を増やす。

国際的な視点から当事者意識をもって課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現を目指す。

ソーシャルインクルージョンを実現し、誰もが住み続けたいと思える魅力溢れるまちを創る。

活力が溢れるもりおかを目指し、主体的に行動ができる子供たちを育成する。

子供たちが夢に向かって新たな一歩を踏み出すために全国大会の誘致を目指す。

青年会議所と市民を繋げ、より多くの共感を生み出す戦略的な広報を実践する。

一般社団法人 盛岡青年会議所　2024年度　事業計画

・会員拡大室

【会員拡大委員会】

1. 会員拡大事業の企画・運営
2. 卒業式の企画・運営
3. 新しい会員の拡大
4. 新入会員育成ツールの作成・活用
5. 東北青年フォーラム（青森/青森）の情報提供・参加啓発

・社会創造室

【国際社会創造委員会】

1. 国際社会創造事業の企画・運営
2. 羅東國際青年商會との姉妹JC交流（渡航）の企画・運営
3. サマーコンファレンスの情報提供・参加啓発
4. JCI 世界会議（台湾/高雄）の情報提供・参加啓発

【まちの未来創造委員会】

1. まちの未来創造事業の企画・運営
2. 盛岡さんさ踊り練習会の企画・運営
3. 第47回盛岡さんさ踊りの企画・運営
4. 京都会議の情報提供・参加啓発

・次世代育成室

【次世代育成委員会】

1. 新年交賀会の企画・運営
2. 次世代育成事業Ⅰ・Ⅱの企画・運営
3. JCI ASPAC（カンボジア/アンコール）の情報提供・参加啓発
4. 第73回全国大会福岡大会の情報提供・参加啓発

【わんぱく相撲構想推進委員会】

1. わんぱく相撲全国女子全国大会誘致活動の企画・運営
2. 第36回わんぱく相撲盛岡場所の企画・運営
3. 第５回わんぱく相撲全国女子（松山）の引率・参加
4. 第39回わんぱく相撲全国男子（東京）の引率・参加

・広報戦略室

【広報戦略委員会】

1. アニュアルレポートの作成・発行
2. 広報誌特別号の作成・発行
3. 広報紙通常号の作成・発行
4. オフィシャルウェブサイトおよびオフィシャルSNSアカウントの運営・管理・活用
5. 第53回岩手ブロック大会（大船渡）の情報提供・参加啓発

・専務理事

【事務局】

1. 組織運営セミナーの企画・運営
2. 会員名簿の作成
3. １月通常総会の設営
4. ２月通常総会の設営
5. ９月通常総会の設営
6. 総会及び理事会の議事録の作成
7. 理事会及び常任理事会の設営
8. 出向者連絡会議の企画・運営
9. 各種渉外受入

・常任理事

1. 異業種交流会の企画・運営
2. OB交流会の企画・運営
3. 活動報告会の企画・運営
4. クリスマス会の企画・運営

・特別委員会

【未来構想特別委員会】

1. 仮会員オリエンテーションの企画・運営
2. 短中期ビジョンの作成
3. 組織運営マニュアルの作成

会員拡大委員会

副理事長　松浦直人
室　長　田口　輝
委員長　福田和晃

1．基本方針

盛岡青年会議所は、一人ひとりが異なる価値観を持ちながら、時代の変化による社会課題の解決に向けて志を同じくし、運動を展開してきました。新陳代謝を繰り返す組織において、持続的且つ、運動をさらに力強く展開していくためには、理念に共感し共に活動する新たな会員の存在が必要不可欠です。

会員拡大委員会では、自らが活動に積極的になり、自分自身の強みや弱みを知り、多様な価値観の中でリーダーとして成長することを目指します。また、会員や市民に対しても、自分自身を認識する機会を提供します。そして、盛岡青年会議所の理念に共感でき同じ志のもとに共に活動できる会員を拡大します。

2．事業計画・予算（案）

事業計画	公益該当項目	開催月	予算額（一般）	予算額（その他）	備考
1. 会員拡大事業の企画・運営	9		200,000円		
1.1. 会員拡大事業の企画・運営	9(3)	5月	200,000円		5月例会
2. 卒業式の企画・運営			610,000円		
2.1. 卒業式の企画・運営		12月	610,000円		12月例会
3. 新入会員の拡大			0円		
3.1. 新入会員の拡大		通年	0円		
3.2. 入会案内書の作成		通年	0円		
3.3. アテンダンスシートの作成		通年	0円		
3.4. 理事長面接及び定款説明の企画・運営		通年	0円		
4. 新入会員育成ツールの作成・活用			0円		
4.1. 新入会員育成ツールの作成・活用		通年	0円		
5. 東北青年フォーラム（青森/青森）の情報提供・参加啓発			0円		
5.1. 東北青年フォーラム（青森/青森）の情報提供・参加啓発		9月	0円		
合　計			810,000円		

※事業の詳細については別紙参照

3．年間スケジュール

期間 / 事業名	2023 10	11	12	2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.1. 会員拡大事業の企画・運営					準備	・・・・・・・・		実施	・・・・	報告					
2.1. 卒業式の企画・運営												準備	・・・・・・・・		実施 報告
3.1. 新入会員の拡大	準備	・・・・・・・・		実施	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・								報告		
3.2. 入会案内書の作成	準備	・・・・・・・・		実施	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・								報告		
3.3. アテンダンスシートの作成	準備	・・・・・・・・		実施	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

国際社会創造委員会

副理事長　三　浦　　崇
室　長　北　條　　宏
委員長　小田島　賢太郎

1．基本方針

人類は豊かさを求め、技術面や経済面でめざましい発展をさせてきました。しかし、発展の代償は大きく、地球温暖化による気候変動、経済活動が原因の資源の枯渇など様々な問題が発生しています。これらの問題は、周囲へもたらす影響よりも自身の豊かさを優先してきたからです。また、私たちは直接これらの影響を自身の生活の中で感じる機会が少なく、世界の現状や問題に対して理解を深め、自発的に行動する意識が向上していないことが要因です。

当委員会では、会員や市民一人ひとりが世界的問題を自分事として捉え、解決に向けた行動ができるよう、国際社会との相互理解を深める機会を提供します。

2．事業計画・予算（案）

事業計画	公益該当項目	開催月	予算額（一般）	予算額（その他）	備考
1. 国際社会創造事業の企画・運営	15		167,600円		
1.1. 国際社会創造事業の企画・運営	15(4)	3月	167,600円		3月例会
2. 羅東國際青年商會との姉妹JC交流(渡航)の企画・運営	15		82,400円		
2.1. 羅東國際青年商會との姉妹JC交流（渡航）の企画・運営	15(4)	5月	82,400円		
3. サマーコンファレンスの情報提供・参加啓発			0円		
3.1. サマーコンファレンスの情報提供・参加啓発		7月	0円		
4. JCI世界会議(台湾/高雄)の情報提供・参加啓発			0円		
4.1. JCI世界会議（台湾/高雄）の情報提供・参加啓発		11月	0円		
合　計			250,000円		

※事業の詳細については別紙参照

3．年間スケジュール

期間 / 事業名	2023 10	11	12	2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.1. 国際社会創造事業の企画・運営			準備	・・・・・・・・・		実施	・・・・	報告							
2.1. 羅東國際青年商會との姉妹JC交流(渡航)の企画・運営					準備	・・・・・・・・・		実施	・・・・	報告					
3.1. サマーコンファレンスの情報提供・参加啓発								準備	・・・・	実施	・・・・	報告			
4.1. JCI世界会議（台湾/高雄）の情報提供・参加啓発												準備	・・・・	実施	報告

まちの未来創造委員会

副理事長　三　浦　　崇
室　長　北　條　　宏
委員長　髙　見　謙　輔

1．基本方針

近年では、ダイバーシティの重要性が広く認識されるようになり、それぞれの個性が認められることで、自分らしい生き方ができるようになりました。その一方で、無意識の偏見からくる意見の対立や認識の齟齬といった課題も生じています。その要因として、相手の価値観に対する理解が乏しいことが挙げられます。

私たちは、多様な個性が出会う機会を創出し、お互いの価値観に寄り添い理解を深め合うことで、すべてのひとが共生できる社会を目指します。

2．事業計画・予算（案）

事業計画	公益該当項目	開催月	予算額（一般）	予算額（その他）	備考
1.まちの未来創造事業の企画・運営	12		200,000円	1,800,000円	
1.1. まちの未来創造事業の企画・運営	12(4)	4月	200,000円	1,800,000円	4月例会 寄付金
2. 盛岡さんさ踊り練習会の企画・運営	19			450,000円	
2.1. 盛岡さんさ踊り練習会の企画・運営	19(4)	6 ～ 7月		450,000円	（公益特会）
3. 第47回盛岡さんさ踊りの企画・運営	19			950,000円	
3.1. 第47回盛岡さんさ踊りの企画・運営	19(4)	8月		950,000円	8月例会 （公益特会）
4. 京都会議の情報提供・参加啓発			0円		
4.1. 京都会議の情報提供・参加啓発		1月	0円		
合　計			200,000円	3,200,000円	

※事業の詳細については別紙参照

3．年間スケジュール

期間 / 事業名	2023 10	11	12	2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.1. まちの未来創造事業の企画・運営			準備	・・・・・・・・・・・・			実施	・・・・	報告						
2.1. 盛岡さんさ踊り練習会の企画・運営						準備	・・・・・・・・		実施	実施	・・・・	報告			
3.1. 第47回盛岡さんさ踊りの企画・運営						準備	・・・・・・・・・・・・・・・・				実施	・・・・	報告		
4.1. 京都会議の情報提供・参加啓発		準備	・・・・	実施	・・・・	報告									

次世代育成委員会

副理事長　鷲　見　保　博
室　長　晴　山　敬　俊
委員長　内　山　佳奈子

1．基本方針

子供たちは自ら楽しいと感じたことに対し、大人が驚くほどの集中力と根気強さを持って取り組みます。この好奇心により子供たちは主体性や創造性を培います。夢を実現するために、子供たちは、自身の持つ可能性を最大限に発揮し、能動的に行動していくことが大切です。

私たちは、子供たちが持つ未知なる可能性を引き出し、いきいきと成長していくための機会を創出して参ります。

2．事業計画・予算（案）

事業計画	公益該当項目	開催月	予算額（一般）	予算額（その他）	備考
1. 新年交賀会の企画・運営			660,000円		
1.1. 新年交賀会の企画・運営		1月	660,000円		1月例会
2. 次世代育成事業の企画・運営	7(3)(4)		240,000円		
2.1. 次世代育成事業Ⅰの企画・運営		6月	145,000円		
2.2. 次世代育成事業Ⅱの企画・運営		7月	95,000円	1,130,000円 (協賛金など)	7月例会
3. JCI ASPAC（カンボジア/アンコール）の情報提供・参加啓発					
3.1. JCI ASPAC（カンボジア/アンコール）の情報提供・参加啓発		6月	0円		
4. 第73回全国大会福岡大会の情報提供・参加啓発					
4.1. 第73回全国大会福岡大会の情報提供・参加啓発		10月	0円		
合　計			900,000円	1,130,000円	

※事業の詳細については別紙参照

3．年間スケジュール

期間 / 事業名	2023 10	11	12	2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.1. 新年交賀会の企画・運営	準備	・・・・・・・・		実施	・・・・	報告									
2.1. 次世代育成事業Ⅰの企画・運営					準備	・・・・・・・・・・・・			実施	・・・・	報告				
2.2. 次世代育成事業Ⅱの企画・運営					準備	・・・・・・・・・・・・・・・・				実施	・・・・	報告			
3.1. JCI ASPAC（カンボジア/アンコール）の情報提供・参加啓発						準備	・・・・・・・・		実施	・・・・	報告				
4.1. 第73回全国大会福岡大会の情報提供・参加啓発										準備	・・・・・・・・	実施	・・・・	報告	

わんぱく相撲構想推進委員会

副理事長　鷲見保博
室　長　晴山敬俊
委員長　牛渡一王

1．基本方針

伝統的な文化に取り組む子供たちの姿は見る人々の共感を生み、ひとの繋がりから活気溢れるまちへと貢献します。まちの活気が失われることは、人々が協働する機会の消失や地域経済が衰退する一因となり、それらは教育格差を生み子供たちの可能性を阻害する大きな課題です。

私たちは、子供たちが活躍できる場を平等に提供し、夢へ挑戦する人々の輪を拡大していくことで、大人たちと子供たちが未来に向かいより強く一歩踏み出すための運動を展開して参ります。また、わんぱく相撲全国大会女子誘致活動の挑戦によって経済の側面の活性化を促し、まち全体が活力で溢れる社会の実現を目指します。

2．事業計画・予算（案）

事業計画	公益該当項目	開催月	予算額（一般）	予算額（その他）	備考
1. わんぱく相撲全国女子全国大会誘致活動の企画・運営			150,000円		
1.1. わんぱく相撲全国女子全国大会誘致活動の企画・運営		4月	150,000円		
2. 第36回わんぱく相撲盛岡場所の企画・運営				1,460,000円	
2.1. 第36回わんぱく相撲盛岡場所の企画・運営	9(15)	6月		1,460,000円	6月例会(公益特会)
3. 第39回わんぱく相撲全国男子 (東京)の引率・参加				152,000円	
3.1. 第39回わんぱく相撲全国男子(東京)の引率・参加	9(15)	8月		152,000円	(公益特会)
4. 第5回わんぱく相撲全国女子(松山)の引率・参加				309,000円	
4.1. 第5回わんぱく相撲全国女子(松山)の引率・参加	9(15)	9月		309,000円	(公益特会)
合　計			150,000円	1,921,000円	

※事業の詳細については別紙参照

3．年間スケジュール

期間 / 事業名	2023 10	11	12	2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.1. わんぱく相撲全国女子全国大会誘致活動の企画・運営				準備	・・・・・・・・		実施	・・・・	報告						
2.1. 第36回わんぱく相撲盛岡場所の企画・運営						準備	・・・・・・・・		実施	・・・・	報告				
3.1. 第39回わんぱく相撲全国男子(東京)の引率・参加								準備	・・・・・・・・		実施	・・・・	報告		
4.1. 第5回わんぱく相撲全国女子(松山)の引率・参加									準備	・・・・・・・・		実施	・・・・	報告	

広報戦略委員会

専務理事　下河原　伸
室　長　伊藤英佑
委員長　田村光宏

1．基本方針

これまで盛岡青年会議所は明るい豊かな社会を目指し、幅広く運動を展開するために情報を発信してまいりました。これからも力強く運動を展開していくためには、市民に対して当会議所の理念や運動の価値を届け、より市民から共感を得る広報活動をしていく必要があります。また、地域をより良くしていくためには、当会議所は委員会の垣根を越えて事業や活動に取り組み、多くの市民を巻き込む運動を行うことが重要です。

私たちは、他委員会と協調して広報活動を行うことで事業の成功をバックアップし、事業や活動の情報を組織全体で共有することで、会員同士が繋がりを強め、一体となって活動に臨める環境を創出します。また、市民に当会議所に対する好意的な認知度を向上させる情報を積極的に発信し、理念や活動に対して共感を得ることで、市民一人ひとりが共に寄り添い前向きに生きる社会を目指します。

2．事業計画・予算（案）

事業計画	公益該当項目	開催月	予算額（一般）	予算額（その他）	備考
1. アニュアルレポートの作成・発行			450,000円		
1.1. アニュアルレポートの作成・発行		1月	450,000円		
2. 広報誌の作成・発行			610,000円		
2.1. 広報誌特別号の作成・発行		1月	430,000円		
2.2. 広報誌通常号の作成・発行		6月	180,000円		
3. オフィシャルウェブサイトおよびオフィシャルSNSアカウントの運営・管理・活用			0円		
3.1. オフィシャルウェブサイトおよびオフィシャルSNSアカウントの運営・管理・活用		通年	0円		
4. 岩手ブロック大会（大船渡）の情報提供・参加啓発			0円		
4.1. 岩手ブロック大会の情報提供・参加啓発		7月	0円		
合　計			1,060,000円		

※事業の詳細については別紙参照

3．年間スケジュール

期間 / 事業名	2023 10	11	12	2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.1. アニュアルレポートの作成・発行	準備	・・・・・・・・		実施	・・・・	報告									
2.1. 広報誌特別号の作成・発行	準備	・・・・・・・・		実施	・・・・	報告									
2.2. 広報誌通常号の作成・発行						準備	・・・・・・・・	実施	・・・・	報告					
3.1. オフィシャルウェブサイトおよびオフィシャルSNSアカウントの運営・管理・活用			準備	通年	・・・・・・・・

未来構想特別委員会

委員長　松　浦　直　人

1．基本方針

盛岡青年会議所は明るい豊かな社会を目指し、常に社会課題に向き合いながら運動を展開してきました。時代が目まぐるしく変化していく中でより大きな運動を展開していくためには、組織のあり方を協議し、メンバー一人ひとりの意見と考えを抽出していく必要があります。会員拡大の短中期ビジョンを明確にし、地域にインパクトを残す運動を展開するための会員数と予算がどの程度必要かを協議し立案します。また、失ってはならない青年会議所活動の本質を保ちつつ時代背景に合わせた組織運営のあるべき姿を検討し、能動的に活動するメンバーを増やすべく組織運営マニュアルを策定します。

2．事業計画・予算（案）

事業計画	公益該当項目	開催月	予算額（一般）	予算額（その他）	備考
1. 仮会員オリエンテーションの企画・運営		通年	0円		
1.1. 仮会員オリエンテーションの企画・運営		通年	0円		
2. 仮会員オリエンテーションの企画・運営		通年	0円		
2.1. 会員拡大の短中期ビジョンの作成		通年	0円		
2. 仮会員オリエンテーションの企画・運営		通年	0円		
3.1. 組織運営マニュアルの作成		通年	0円		
合　計			0円		

※事業の詳細については別紙参照

3．年間スケジュール

期間 / 事業名	2023 10	11	12	2024 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.1. 仮会員オリエンテーションの企画・運営		準備	・・・・	実施	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	報告
2.1. 会員拡大の短中期ビジョンの作成		準備	・・・・	実施	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	報告
3.1. 組織運営マニュアルの作成		準備	・・・・	実施	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	・・・・	報告

〈公益事業23項目〉

学術、芸術、事前その他の公益に関する別表各号に掲げる種類の事業であって、「不特定」かつ「多数」の者への利益増進に寄与するもの。

1、学術及び科学技術の振興を目的とする事業
2、文化及び芸術の振興を目的とする事業
3、障害者もしくは生活困窮者又は事故、災害もしくは犯罪による被害者の支援を目的とする事業
4、高齢者の福祉の増進を目的とする事業
5、勤労意欲のある者に対する就労の支援を目的とする事業
6、公衆衛生の向上を目的とする事業
7、児童又は青少年の健全の育成を目的とする事業
8、勤労者の福祉の向上を目的とする事業
9、教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性の涵養を目的とする事業
10、犯罪防止又は治安の維持を目的とする事業
11、事故又は災害の防止を目的とする事業
12、人種、性別その他の事由による不当な差別又は偏見の防止を目的とする事業
13、思想及び良心の自由、信仰の自由又は表現の自由の尊重又は擁護を目的とする事業
14、男女共同参画社会の形成その他のより良い社会の形成の推進を目的とする事業
15、国際相互理解の促進及び発展途上にある海外の地域に対する経済協力を目的とする事業
16、地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備を目的とする事業
17、国土の利用、整備又は保全を目的とする事業
18、国政の健全な運営の確保に資することを目的とする事業
19、地域社会の健全な発展を目的とする事業
20、公正かつ自由な経済活動の機会の確保及び促進並びにその活性化による国民生活の安定向上を目的とする事業
21、国民生活に不可欠な物資、エネルギー等の安定供給の確保を目的とする事業
22、一般消費者の利益の擁護又は増進を目的とする事業
23、上記のほか、公益に関する事業として政令で定めるもの

事業区分	
⑴ 検査検定	申請に応じて、主として製品等の安全性、性能等について、一定の基準に適合しているかの検査を行い、当該基準に適合していれば当該製品の安全性等を認証する事業のことである。
⑵ 資格付与	申請者の技能・技術等について、一定の水準に達しているかの試験を行い、達していれば申請者に対して資格を付与する事業のことである。
⑶ 講座、セミナー、育成	受講者を募り、専門的知識・技能等の普及や人材の育成を行う事業のことである。
⑷ 体験活動等	公益目的のテーマを定め、比較的短期間の体験を通じて啓発、知識の普及等を行う事業のことである。
⑸ 相談、助言	相談に応じて、助言や斡旋その他の支援を行う事業のことである。
⑹ 調査、資料収集	あるテーマを定めて、法人内外の資源を活用して、意識や実態等についての調査、資料収集又は当該調査の結果その他の必要な情報を基に分析を行う事業のことである。
⑺ 技術開発、研究開発	あるテーマを定めて、法人内外の資源を活用して技術等の開発を行う事業のことである。なお、成果については、成果の発表や論文の発表を行うとともに、知的財産権の取得を行うのが一般的である。
⑻ キャンペーン、○○月間	ポスター、新聞その他の各種広報媒体等を活用し、一定期間に集中して、特定のテーマについて対外的な啓発活動を行う事業のことである。
⑼ 展示会、○○ショー	展示という手段により、特定のテーマについて対外的な啓発・普及活動を行う事業（文化及び芸術の振興に係る事業を除く。）のことである。比較的短期間であるため、法人が会場を借り上げ、ブースを出展者に貸す場合が多い。
⑽ 博物館等の展示	歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集・保管し、展示を行う事業のことである。
⑾ 施設の貸与	公益目的のため、一定の施設を個人、事業者等に貸与する事業のことである。
⑿ 資金貸付、債務保証等	公益目的で個人や事業者に対する資金貸付や債務保証等を行う事業のことである。
⒀ 助成	応募・選考を経て、公益目的で、個人や団体に対して資金を含む財産価値のあるものを原則として無償で提供する事業のことである。
⒁ 表彰、コンクール	作品・人物等表彰の候補を募集し、選考を経て、優れた作品・人物等を表彰する事業のことである。
⒂ 競技会	スポーツ等の競技を行う大会を開催する事業のことである。
⒃ 自主公演	法人が、自らの専門分野について制作した作品を演じ、又は演奏する事業のことである。
⒄ 主催公演	法人が、主として外部制作の公演の選定を行い、主催者として当該公演を実施する事業のことである。

一般社団法人 盛岡青年会議所　2024年度　当初予算

2024年1月1日から2024年12月31日まで

（単位：円）

科　　目	2024年度予算額	2023年度予算額	増　減	摘　　要
Ⅰ事業活動収支の部				
1.事業活動収入				
①特定資産運用収入	0	0	0	
特定資産利息収入	0	0	0	
②入会金収入	810,000	1,200,000	-390,000	
入会金収入	810,000	1,200,000	-390,000	30,000円×27名
③会費収入	11,780,000	13,260,000	-1,480,000	
正会員会費収入	10,980,000	12,620,000	-1,640,000	
正会員年会費	8,640,000	9,240,000	-600,000	120,000円×72名
正会員（休会者）	180,000	180,000	0	60,000円×3名
新入会員	1,350,000	2,000,000	-650,000	月割計算×27名
仮会員	810,000	1,200,000	-390,000	3ヶ月で入会（10,000y/m×27名）
特別会員会費収入	800,000	640,000	160,000	40,000円×2024年度卒業生20名
賛助会員会費収入	0		0	
④事業収入	1,417,000	1,532,500	-115,500	
事業費繰入収入	0	0	0	
登録料収入	0	231,000	-231,000	
販売収入	0	0	0	
業務受託収入	1,306,000	1,186,000	120,000	岩手B事務局委託費　1,036,000円 シニアクラブ委託費　150,000円 盛岡ビクトリア友好協会事務委託費　120,000円
家賃・会議室料収入	0	0	0	
雑収入	111,000	115,500	-4,500	会員名簿￥1,500×74名
⑤補助金等収入	0	0	0	
国庫補助金収入	0	0	0	
地方公共団体補助金収入	0	0	0	
民間補助金収入	0	0	0	
国庫助成金収入	0	0	0	
地方公共団体助成金収入	0	0	0	
民間助成金収入	0	0	0	
⑥寄付金収入	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	
募金収入	0	0	0	
⑦雑収入	100,700	100,700	0	
受取利息収入	700	700	0	
その他雑収入	100,000	100,000	0	お祝い金など
事業活動収入計	14,107,700	16,093,200	-1,985,500	
2.事業活動支出			0	
①事業費支出	3,990,000	5,253,000	-1,263,000	
事業費支出	3,870,000	5,013,000	-1,143,000	
例会・事業活動等	500,000	300,000	200,000	常任理事会・事務局設営事業
会員拡大委員会	810,000	744,000	66,000	比較：2023会員開発委員会
国際社会創造委員会	250,000	793,000	-543,000	比較：2023国際社会研究委員会
まちの未来創造委員会	200,000	1,282,000	-1,082,000	比較：2023まちの未来創造委員会
次世代育成委員会	900,000	526,000	374,000	比較：2023次世代育成委員会
わんぱく相撲構想推進委員会	150,000	0	150,000	
広報戦略委員会	1,060,000	1,118,000	-58,000	比較：2023JCブランディング委員会
未来構想特別委員会	0	0	0	比較：2023組織拡大特別委員会
	0	250,000	-250,000	比較：2023公開討論会プロジェクトチーム
委員会運営費支出	0	0	0	
事業予備費支出	120,000	240,000	-120,000	

科　　目	2024年度予算額	2023年度予算額	増　減	摘　　要
②管理費支出	7,390,978	7,894,527	-503,549	
会議費支出	30,000	110,000	-80,000	
総会費	20,000	100,000	-80,000	総会費用
各種会議費	10,000	10,000	0	各種会議費
給与手当支出	2,500,000	2,500,000	0	給与＋一時金
福利厚生費支出	500,000	500,000	0	事務局員厚生年金・雇用保険 健康保険・中退金・事務局健康診断
旅費交通費支出	150,000	200,000	-50,000	
通信・発送費支出	300,000	300,000	0	
消耗品費支出	220,000	200,000	20,000	
会員支給品費支出	676,900	690,000	-13,100	
会員名簿作成費	550,000	550,000	0	
バッジ・ネームプレート購入費	126,900	140,000	-13,100	バッジ￥3,000　プレート￥1,700　27名
修繕費支出	80,000	80,000	0	
光熱水道費支出	424,000	424,000	0	
賃借料支出	1,320,000	1,320,000	0	事務所賃貸料￥110,000×12ヶ月
業務委託料支出	300,000	300,000	0	
インフォメーション関係費	350,000	366,000	-16,000	ホームページ制作・運営費 (基本料金・ドメイン・レンタルサーバー),ZOOM
租税公課支出	72,000	72,000	0	
渉外費支出	310,000	660,000	-350,000	
各種大会登録料	0	250,000	-250,000	
他団体会費	50,000	50,000	0	
他団体交流関係費	200,000	300,000	-100,000	
冠婚葬祭関係支出	60,000	60,000	0	お酒、慶弔、お祝い金など
ブース出展費	0	0	0	各種大会
バス代	0	0	0	各種大会
雑支出	50,000	50,000	0	
管理・運営予備費	108,078	122,527	-14,449	
③負担金支出	1,976,722	1,965,673	11,049	
ＪＣＩ負担金	228,072	180,648	47,424	
日本ＪＣ負担金	465,000	545,000	-80,000	基本額および付加金
地区協議会負担金	117,500	120,500	-3,000	
ブロック協議会負担金	465,000	475,000	-10,000	
国際協力資金	186,150	213,525	-27,375	
日本ＪＣ出向者負担金	220,000	120,000	100,000	
We Believe購読料	275,000	281,000	-6,000	
東北地区出向者負担金	20,000	30,000	-10,000	
④他会計へ繰越金支出	750,000	980,000	-230,000	
特別会計への繰入金支出	750,000	980,000	-230,000	積立金管理特別会計へ
事業活動支出計	14,107,700	16,093,200	-1,985,500	
事業活動収支差額	0	0	0	

科　　目	2024年度予算額	2023年度予算額	増　減	摘　　要
Ⅱ投資活動収支の部				
1.投資活動収入				
①特定資産取崩し収入	0	0	0	
②固定資産売却収入	0	0	0	
③固定資産取崩収入	0	0	0	
④敷金・保証金戻り収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2.投資活動支出				
①特定資産取得支出	0	0	0	
②固定資産取得支出	0	0	0	
③敷金・保証金支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
Ⅲ財務活動収支の部				
1.財務活動収入				
①借入金収入	0	0	0	
2.財務活動支出				
①借入金返済支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ予備費支出				
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

2024年度　公益目的支出計画管理特別会計　収支予算書

自2024年1月1日　至2024年12月31日

（単位：円）

科　　目	当年度予算額	摘　　要
Ⅰ事業活動収支の部		
1.事業活動収入		
⑤補助金等収入	400,000	
国庫補助金収入	0	
地方公共団体補助金収入	0	
民間補助金収入	400,000	盛岡さんさ踊り実行委員会より
国庫助成金収入	0	
地方公共団体助成金収入	0	
民間助成金収入	0	
⑦雑収入	0	
受取利息収入	0	
その他雑収入	0	
⑧他会計からの繰入金収入	0	
本会計からの繰入金収入	0	
他の特別会計からの繰入金収入	0	
委員会事業会計からの繰入金収入	0	
事業活動収入計	400,000	
2.事業活動支出		
①事業費支出	3,321,000	
わんぱく相撲構想推進委員会	1,921,000	わんぱく盛岡1,460,000円、わんぱく男子全国152,000円、わんぱく女子全国309,000円
まちの未来創造委員会	1,400,000	さんさ踊り練習会450,000円、盛岡さんさ踊り（8月例会）950,000円
④他会計へ繰越金支出	0	
特別会計への繰入金支出	0	
事業活動支出計	3,321,000	
当期収支差額	-2,921,000	
前期繰越収支差額	25,869,974	
次期繰越収支差額	22,948,974	

2024年度　特別事業支出積立金管理特別会計　収支予算書

自2024年1月1日　至2024年12月31日

（単位：円）

科　　目	当年度予算額	摘要
Ⅰ事業活動収支の部		
1.事業活動収入		
④事業収入	0	
事業費繰入収入	0	
登録料収入	0	
販売収入	0	
業務受託収入	0	
家賃・会議室料収入	0	
雑収入	0	
⑦雑収入	0	
受取利息収入	0	
その他雑収入	0	
⑧他会計からの繰入金収入	750,000	
本会計からの繰入金収入	750,000	
他の特別会計からの繰入金収入	0	
委員会事業会計からの繰入金収入	0	
事業活動収入計	750,000	
2.事業活動支出		
①事業費支出	0	
委員会	0	
②管理費支出	0	
修繕費支出	0	
渉外費支出	0	
国際交流促進費	0	
管理・運営予備費	0	
④他会計へ繰越金支出	0	
本会計への繰入金支出	0	
特別会計への繰入金支出	0	
委員会事業会計への繰入金支出	0	
事業活動支出計	0	
当期収支差額	750,000	
前期繰越収支差額	8,149,530	
次期繰越収支差額	8,899,530	

2024年度　収益事業管理特別会計　収支予算書

自2024年1月1日　至2024年12月31日

（単位：円）

科　　目	2024年度予算額	2023年度予算額	増　　減	摘　　要
Ⅰ事業活動収支の部				
1.事業活動収入				
①事業収入	40,000	40,000	0	
事業費繰入収入	0	0	0	
登録料収入	0	0	0	
販売収入	0	0	0	
販売手数料収入	40,000	40,000	0	自動販売機販売　売上×20%
業務受託収入	0	0	0	
家賃・会議室料収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
②雑収入	0	0	0	
受取利息収入	0	0	0	
その他雑収入	0	0	0	
③他会計からの繰入金収入	0	0	0	
本会計からの繰入金収入	0	0	0	
他の特別会計からの繰入金収入	0	0	0	
委員会事業会計からの繰入金収入	0	0	0	
事業活動収入計	40,000	40,000	0	
2.事業活動支出				
①事業費支出	0	0	0	
委員会	0	0	0	
②管理費支出	0	0	0	
修繕費支出	0	0	0	
渉外費支出	0	0	0	
管理・運営予備費	0	0	0	
③他会計へ繰越金支出	0	0	0	
本会計への繰入金支出	0	0	0	
特別会計への繰入金支出	0	0	0	
委員会事業会計への繰入金支出	0	0	0	
事業活動支出計	0	0	0	
当期収支差額	40,000	40,000	0	
前期繰越収支差額	324,200	284,200	40,000	
次期繰越収支差額	364,200	324,200	40,000	

一般社団法人 盛岡青年会議所　2024年度　役員･役職名簿

■役員

理事長	山内圭介
副理事長	鷲見保博
副理事長	松浦直人
副理事長	三浦崇
専務理事	下河原伸
室長	伊藤英佑
室長	田口輝
室長	晴山敬俊
室長	北條宏
常務理事	中嶋政裕
理事	牛渡一王
理事	内山佳奈子
理事	小田島賢太郎
理事	髙見謙輔
理事	田村光宏
理事	福田和晃
出向理事	作山智彦
事務局長	宮澤貴明
事務局次長	齊藤大輝
事務局次長	高橋敬太
事務局次長	森達貴
監事	鈴木亮
監事	山口雄司

■顧問･直前理事長

直前理事長	小野寺数馬

一般社団法人 盛岡青年会議所　2024年度　出向者名簿

■公益社団法人日本青年会議所（11 名）

経済グループ　地域経済活性化会議	委　　員	宮野　洵弥
社会グループ　国土強靭化委員会	副委員長	舛澤　佑太
	小 幹 事	宮川　雅好
	委　　員	藤原　良行
	委　　員	加藤　巧寛
	委　　員	錦織亜希子
社会グループ　主権者意識向上委員会	副委員長	小野寺数馬
	小 幹 事	髙橋　　凌
	小 幹 事	佐々木文也
	委　　員	伊藤　英佑
	委　　員	米内　紘正

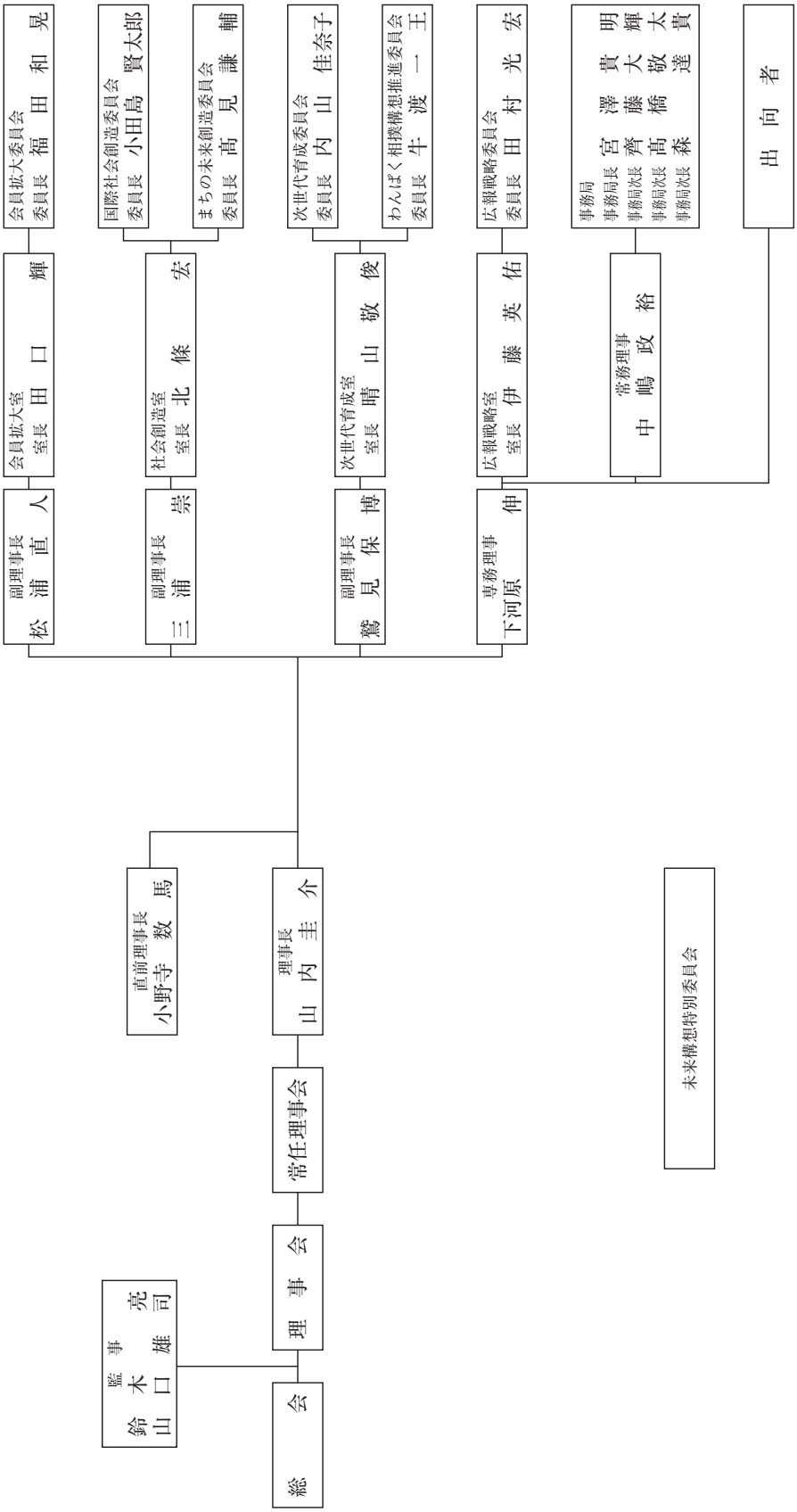
■公益社団法人日本青年会議所　東北地区協議会（３名）

組織連携推進委員会	委　　員	照井　淳史
	委　　員	晴山　敬俊
東北国際ゼミナール特別委員会	委　　員	鷲見　保博

■公益社団法人日本青年会議所　東北地区岩手ブロック協議会（21 名）

	副会長	山口　雄司
岩手の未来創造委員会	委　　員	三浦　滉大
ブロック大会運営委員会	委　　員	赤坂　俊介
連携推進委員会	幹　　事	髙梨　光昭
総務広報委員会	委 員 長	作山　智彦
	幹　　事	小岩　泰武
財政局	局　　員	田口　　輝
	事務局次長	土井　康平
いわてJAYCEEアカデミー委員会	学長補佐	田端　　結
	委　　員	阿部　周平
	委　　員	倉橋　瑞季
	委　　員	佐藤　陽一
	委　　員	髙橋　敬太
	委　　員	土井　康平
	委　　員	中村　文哉
	委　　員	南郷　徳英
	委　　員	錦織亜希子
	委　　員	藤倉　雅和
	委　　員	舛澤　佑太
	委　　員	森　　達貴
	委　　員	横澤　羽馬

一般社団法人 盛岡青年会議所　2024年度　組織図



2024年度　年間スケジュール

		1月	2月	3月	4月	5月	6月
盛岡	常任理事会	16日(火)	13日(火)	12日(火)	9日(火)	7日(火)	11日(火)
	理事会	30日(火)	27日(火)	26日(火)	23日(火)	21日(火)	25日(火)
岩手ブロック協議会	正副会長会議						
	役員会議	15日(月)	8日(木)	14日(木)	11日(木)	9日(木)	13日(木)
	会員会議所会議	25日(木) 【花巻】	29日(木) 【北上】	28日(木) 【奥州】	25日(木) 【一関】	30日(木) 【釜石】	26日(水) 【開催地未定】
	岩手ブロック懇親会			22日(金) 【奥州】	19日(金) 【一関】	24日(金) 【釜石】	
	ブロック行事		3日(土) 新春のつどい 【大船渡】				26日(水) 会頭公式訪問 【開催地未定】
	ＪＡＹＣＥＥ アカデミー		3日(土) 開校式 【大船渡】	第１講座 【開催地未定】		第２講座 【開催地未定】	
	各ＬＯＭ事業						
東北地区協議会	正副会長 ミーティング	9日(火) 【ＷＥＢ】	6日(火) 【ＷＥＢ】	5日(火) 【ＷＥＢ】	2日(火) 【ＷＥＢ】	7日(火) 【ＷＥＢ】	4日(火) 【ＷＥＢ】
	正副会務会議	16日(火) 【仙台】	13日(火) 【仙台】	12日(火) 【泉】	9日(火) 【郡山】	14日(火) 【未定】	11日(火) 【酒田】
	財政規則審査会議	23日(火) 【WEB】	22日(木) 【WEB】	22日(金) 【WEB】	18日(木) 【WEB】	24日(金) 【WEB】	20日(木) 【WEB】
	役員会議	31日(水) 【仙台】	27日(火) 【郡山】	26日(火) 【弘前】	23日(火) 【由利本荘】	28日(火) 【泉】	25日(火) 【未定】
	会員会議所会議	19日(金) 【京都】					28日(金) 【仙台】
	地区行事						
	東北ゼミナール 特別委員会						
日本青年会議所	正副会頭会議 (月初)	6日(土) (ＪＣ会館)	1日(木) (ＪＣ会館) 22日(木) (福岡)		4日(木) (高松) 26日(金) (東広島)	30日(火) (埼玉)	30日(日) (開催地未定)
	正副会頭会議 (月中/WEB)	12日(金) (ＪＣ会館)	8日(木) (大阪・勝尾寺)	1日(金) (ＪＣ会館)	11日(木) (ＪＣ会館)	9日(木) (開催地未定)	13日(木) (開催地未定)
	常任理事会	13日(土) (ＪＣ会館)	16日(金) (ＪＣ会館)	7日(木) (ＪＣ会館)	19日(金) (ＪＣ会館)	17日(金) (開催地未定)	21日(金) (開催地未定)
	理事会	19日(金) (京都)	17日(土) (ＪＣ会館)	8日(金) (ＪＣ会館)	20日(土) (ＪＣ会館)	18日(土) (開催地未定)	22日(土) (開催地未定)
	総会	20日(土) (京都)		23日(土) (東京)			
	ＪＣＩ諸会議	ＪＣＩ常任理事会/ 理事会 (ＪＣＩ ＪＥＭ/ＪＢＭ) 7日(日) ～ 12日(金)				アフリカ・中東地域会議 22日(水) ～ 26日(日) アメリカ地域会議 8日(水) ～ 11日(土)	アジア・太平洋地域会議 6日(木) ～ 9日(日) ヨーロッパ・地域会議 12日(水) ～ 15日(土)
	ＮＯＭ主要事業	京都会議(京都) 18日(木) ～ 21日(日)					
	財政審査会議	8日(月)	10日(土)	2日(土)	13日(土)	11日(土)	15日(土)
	公益審査会議	8日(月)	10日(土)	2日(土)	13日(土)	11日(土)	15日(土)
	コンプライアンス 審査会議	8日(月)	10日(土)	2日(土)	13日(土)	11日(土)	15日(土)
	その他	ＪＣＩ諸会議・大会　開催地 【ＪＣＩ常任理事会/理事会】アメリカ(セントルイス)　【中間常任理事会】未定(未定) 【アメリカ地域会議】パラグアイ(アスンシオン)【アフリカ・中東地域会議】ルワンダ(ギガリ)【ヨーロッパ地域会議】フィンランド(オウル) 【アジア・太平洋地域会議】カンボジア(アンコール)【世界会議】台湾(桃園)					

2024年度　年間スケジュール

		7月	8月	9月	10月	11月	12月
盛岡	常任理事会	9日(火)	6日(火)	3日(火)	8日(火)	5日(火)	10日(火)
	理事会	23日(火)	20日(火)	17日(火)	22日(火)	19日(火)	23日(月)
岩手ブロック協議会	正副会長会議						
	役員会議		8日(木)	12日(木)	10日(木)	7日(木)	
	会員会議所会議		29日(木) 【遠野】	26日(木) 【陸中宮古】	24日(木) 【陸前高田】	16日(土) 【大船渡】	8日(日) 【盛岡】
	岩手ブロック懇親会		23日(金) 【遠野】	20日(金) 【陸中宮古】	18日(金) 【陸前高田】		8日(日) 【盛岡】
	ブロック行事	6日(土) ブロック大会 【大船渡】				16日(土) 謝恩会 【大船渡】	
	ＪＡＹＣＥＥ アカデミー		第３講座 【開催地未定】		第４講座・閉校式 【一関】		
	各ＬＯＭ事業						
東北地区協議会	正副会長 ミーティング	2日(火) 【ＷＥＢ】	6日(火) 【ＷＥＢ】	3日(火) 【ＷＥＢ】	1日(火) 【ＷＥＢ】	5日(火) 【ＷＥＢ】	
	正副会務会議	9日(火) 【遠野】	13日(火) 【未定】	10日(火) 【未定】	8日(火) 【未定】	12日(火) 【未定】	
	財政規則審査会議	17日(水) 【WEB】	23日(金) 【WEB】	20日(金) 【WEB】	18日(金) 【WEB】	22日(金) 【WEB】	
	役員会議	23日(火) 【未定】	27日(火) 【未定】	24日(火) 【未定】	29日(金) 【未定】		5日(木) 【仙台】
	会員会議所会議						6日(金) 【仙台】
	地区行事			東北青年フォーラム 【青森】			
	東北ゼミナール 特別委員会						
日本青年会議所	正副会頭会議 (月初)			4日(水) (大阪) 19日(木) (帯広)	17日(木) (一関)	28日(木) (神戸)	
	正副会頭会議 (月中/WEB)	11日(木) (開催地未定)		12日(木) (開催地未定) 26日(木) (開催地未定)		8日(金) (開催地未定)	12日(木) (開催地未定)
	常任理事会	18日(木) (開催地未定)		13日(金) (開催地未定)	3日(木) (福岡)	22日(金) (開催地未定)	13日(金) (開催地未定)
	理事会	19日(金) (横浜)		14日(土) (開催地未定)	4日(金) (福岡)	23日(土) (開催地未定)	14日(土) (開催地未定)
	総会				4日(金) (福岡)		
	ＪＣＩ諸会議	ＪCI中間常任理事会 (ＪCI MYE) 22日(月) ～ 26日(金)				ＪＣＩ世界会議(台湾) 10/30(水) ～ 3日(日)	
	NOM主要事業	国際アカデミー (福井) 8日(月) ～ 14日(日) サマーコンファレンス (横浜) 20日(土) ～ 21日(日)			全国大会(福岡) 3日(木) ～ 6日(日)		
	財政審査会議	13日(土)		14日(土) 28日(土)		16日(土)	7日(土)
	公益審査会議	13日(土)		14日(土) 28日(土)		16日(土)	7日(土)
	コンプライアンス 審査会議	13日(土)		14日(土) 28日(土)		16日(土)	7日(土)
	その他						

アンケートへのご協力のお願い

今後のアニュアルレポート作成・発行の参考とさせていただく為右記の二次元コードからアンケートのご協力をお願い申し上げます。

一般社団法人盛岡青年会議所　広報戦略委員会

JCI Morioka

Junior Chamber International Morioka
一般社団法人 盛岡青年会議所

〒020-0024 盛岡市菜園2-6-6 スクエアテラス盛岡ビル
TEL：019-651-3778　FAX：019-654-4476
URL http://www.moriokajc.org
E-mail:info@moriokajc.org